

生物資源環境学部 > 教職科目 > 2019年度入学者以降
1年
2単位 前期集中
その他
実務経験あり
講義
小林 淳一

〔目的〕

教職に就くにあたっての基礎科目であり、講義の目的は次の4点である。①資料を基に各時間における内容を理解する。②ペアワーク、グループワークにより、学校教育現場における教育理論の具体的な援用方法を考察する。③プレゼンテーションにより意見交換を図る。④シャトルカード・最終課題を通し、知識の定着化を目指す。

〔到達目標〕

わが国の教職に関わる歴史の変遷を理解するとともに、教育現場の現代的な実態把握、さらには教師の役割と意義、資質能力や職務内容等の専門性を学ぶことを通して、学校教育分野における基礎的な知識・技能を多角的・多層的な見地から修得することが本授業の到達目標である。また、時間外学修を促進し、教職課程履修における主体的な学習者になり、適性吟味・進路選択に資する基礎素養を培うことを意図する。

〔授業計画・内容(概要)〕

我が国の学校教育の歴史的背景と今日的事情を、理論と実践の往還の観点から学ぶ。

〔授業計画〕

- 第 1 回 教職の使命と役割・教職における基本的理解
学校教員の社会的使命と役割を理解するとともに、レディネスとして15回の授業計画および評価方法、課題の内容について把握する。
- 第 2 回 学校・教員免許の種類と特質、子どもの発達段階による学校や教員の資質と役割
教員免許を取得するまでの道筋と、免許の種類と法的拘束力を学ぶ。また、学校種による教師役割の異同について理解と、それに関する教育効果について学ぶ。
- 第 3 回 幼児教育・初等教育・中等教育・高等教育の役割と実態
「一条校」の役割と、各学校で展開される教育活動の実態、および今後の展望について学修する。また、学校教育で展開される教育方法について考究する。
- 第 4 回 学校教育と生涯学習の連動性
生涯にわたり学び続ける学習者になるために、生涯学習の理念と実態を理解し、学校教育との連動性について考究する。
- 第 5 回 教育法規と教員の職務内容及び服務上の義務
教員の職務内容に関し、特に法規的観点から学ぶ。児童生徒の個人情報取り扱いや著作権、著作隣接権と学校教育について理解する。また、養

- 成期の教職課程を概観し、近年の改正動向(特にICT活用能力の習得)について具体的に理解する。
- 第 6 回 地方行政、教育委員会制度と学校
教員採用試験を含む地方行政とその特色、学校および教員のあり方について理解する。
- 第 7 回 学習指導要領と今日に至るまでの日本の教育の歴史の変遷
戦後の学校教育の変遷と、今後と展望について学修指導要領の改訂を手掛かりに考究する。
- 第 8 回 教員の職業的社会化と職能発達－協働性と組織化を含む－
職業的社会化のメカニズムを社会学の視点から学ぶとともに、職能発達・職能成長の様相を教育学の視点から考究する。
- 第 9 回 教員の多忙感とメンタルヘルス及び他職種との比較
バーンアウト、早期バーンアウト、およびリアリティショックに関し、教職の視点と具体例から考察し、ストレス耐性の強い教師になるための方法について考える。
- 第 10 回 「チーム学校」のあり方と展望
学校と地域社会の連携による教育システムについて理解する。
- 第 11 回 教職観の変遷と教員の今日的な資質能力(ICT活用能力を含む)
教育における不易と流行を見極め、今日的な学校現場で要求される資質能力について、実践場面を踏まえて学修する。
- 第 12 回 教職における各種研修の連動性と意義・今後の展望
初任者研修、各年度ごとの研修および教員免許更新講習について理解し、そこで修得すべき資質能力について考究する。
- 第 13 回 課外活動・地域連携における教員の役割と連携体制－時間外業務・体罰問題を含む－
部活動、地域連携活動における教師の役割と職務範囲について学ぶ。
- 第 14 回 防災教育と減災教育
東日本大震災、能登地震において、学校や教員が実際に担った役割を事例とし、教師として危機管理にどう対応するかを理解する。
- 第 15 回 能動的学修を促進し、生涯に亘り学び続ける教育者になるために
学校教育における理論と実践の往還を適切に捉える視点と方法について学修する。
- 第 16 回 期末試験

〔成績評価の方法〕

毎時の課題(学修ポートフォリオ)及び主体的な取り組み(40%)、期末試験(60%)で評価。

〔予習・復習に関する指示〕

毎時間の終わりに、次時までの予習と復習を口頭で説明します。

〔教科書・参考書〕

(教材) 資料を配布する。

(参考書) 『これからの学校教育を担う教師を目指す』日本学校教育学会編 学事出版、2016。

〔その他履修上の注意事項〕

教職志望意識の有無に関わらず、自分自身が教壇に立つことを想定して主体的に受講すること。

〔オフィスアワーの設定〕

随時。

〔カリキュラムの中の位置づけ〕

教育実習前に履修しておくことを推奨する。

〔その他〕

実務経験に関して：高校教員(英語)の経験をもとに、学校教育の理論と実践の関連性について講義する。また、石川県バスケットボール協会理事・石川県大学バスケットボール連盟理事長(大学選抜監督)の経験をもとに、部活動、地域連携活動における教師の役割と職務範囲について講義する。

〔資格関係〕

教職課程関連科目 (履修の手引別表参照)

〔キーワード〕

教員養成、理論と実践の往還、教師の職業能力

教育原理 (Principle of Education)

601

生物資源環境学部 > 教職科目 > 2019年度入学者以降
1年 後期
2単位 火曜 3限
実務経験なし 講義
石倉 瑞恵

〔目的〕

教育思想、近代学校成立の歴史、様々な教育事例を学び、対象としての子どもを捉える視点、学校教育について考える基礎的な思考力を身につける。また、多様な教育の可能性と教育者の姿に気づき、現在の学校教育から問題を見出したり、学校教育の更なる発展について考えたりする力を身につけることを目的とする。

〔到達目標〕

- 1 教育思想家が提示する子ども像、教育の目的と方法について、思想的相違と共通点を見出しながら説明することができる。
- 2 近代学校の成り立ち、近代学校における教育の目的を理解し、日本の学校教育がどのような経緯を経て現在の形に至ったのかについて説明することができる。
- 3 学校で扱う教育知とは何かについて理解し、新教育における教育知の概念と教育の方法について学ぶ。旧教育と新教育の相違、新教育の教育方法について説明することができる。

〔授業計画・内容 (概要)〕

〔授業計画〕

第 1 回 子どもとは

子どもは愛情をもって育まれるべき対象である。ところが、子どもに独自の価値を認めず「劣った大人」と考えられてきた時代は長い。子ども観の転機、子どもを可能性ととらえるようになったターニングポイントとその後の教育思想の基盤となる子ども観について学習しよう。

第 2 回 子ども中心視座への序章：コメニウスの教育学
子ども観の転機が訪れても教育には子どもの視点が欠如していた。教育学の祖コメニウスは、学校、教授法などに関して、現代に通じる斬新なアイデアを提唱した。コメニウスの教授法、そして教授法の要となる感覚に訴える教育、そのための教材について学び、教育方法の基礎を身につけよう。

第 3 回 ルソーの子ども観と教育論：自然を考える
革命前夜のフランスで活躍したルソー、その著作に『社会契約論』があることは周知である。彼は、偉大なる教育思想家である。大人は悪そのものである、大人に染まらない子どもらしい子どもを育てようとして執筆した『エミール』を中心に、疲弊した社会の中で誰もが幸福になる教育のあり方について考えてみよう。

第 4 回 ペスタロッチの子ども観と教育論：心と体と知
子どもを鞭打つ教育が主流であった時代に「居間の教育」を提唱したペスタロッチ。彼は、教育思想家であり教育実践家である。彼の教育方法論は、日本の大正期の新教育、アメリカ新教育の先駆者デューイにも影響を及ぼした。今、アクティブ・ラーニングが脚光を浴びているが、何も新しいことではない。それは、ペスタロッチが提唱した教育方法、教育の基本中の基本である。さあ、教育方法について思考を深めよう。

第 5 回 フレーベルに学ぶ発達観
子どもは神性の発露である。大人が失った創造性に満ち溢れている。常に子どもの傍らにあったフレーベルがその著書『人間の教育』の中で説く、子どもの特性、大人の接し方、教育の方法と目的について学ぶ。フレーベルの発達観と真逆の論理が生じている現代の教育を見直してみよう。

第 6 回 西欧における近代学校の登場：一斉教授の始まり
我々になじみの深い一斉教授、机の並びと先生の立ち位置、この教育スタイルが「発明」されたのは18世紀のイギリス。あまりにも画期的で「風変わり」とも評されたほどであった。一斉教授の機能は何か？なぜ多くの子どもを一つの部屋に収めて教育する必要があったのか。そして、その限界は？一斉教授について学び、教育空間の重要性について知ろう。

第 7 回 日本の学校の成立：自由教育思想から教育勅語へ
明治期の日本、近代教育が導入され、ヨーロッパ教育思想に根付いた教育の理念がうたわれた。しかし、いくばくもなく皇国思想に基づく「教育勅語」が下賜され、中央集権的な教育にとってかわる。教育勅語下での教育内容、教科書はどのよう

なものであったかを学び、当時の学校教育が日本人の精神性にどこまで深く入り込んだのか、考えてみよう。

第 8 回 大正デモクラシーの教育思想：エレン・ケイ
国家人材育成を掲げた中央集権的教育に雪解けが訪れる。大正期、戦勝国としてのゆとりからデモクラシーの風潮が容認されるようになったからだ。当時の日本人教育者、思想家の中で熱心に読まれたエレン・ケイの思想を理解し、日本の文脈の中で展開した「新教育」の意義を考えてみよう。

第 9 回 大正デモクラシーと教育：児童文化と学級文化
大正年間には、現代の日本の教育を支える素晴らしい文化が誕生した。子どもの世界を再現した児童文化、童謡や童話、雑誌は、それとは知らずに現代人が親しんでいるものである。大正期児童文化がいかに子どもの世界を表象しているか分析してみよう。また、現在に通じるクラスルーム、学級文化も児童文化の萌芽とともに花開く、その背景を理解しよう。

第 10 回 戦前・戦中の教育
多くの子どもが犠牲になる「思想性」を植えた戦時下の教育について、教育に携わる者はその痛みまで理解しなければならない。日本の戦前・戦中の教育の実際を学び、戦後「児童の権利」を成文化して保障するようになる背景について理解しよう。

第 11 回 児童福祉を考える
戦中の教育「ヨーロッパ編」である。戦前ドイツのノン・フォーマルデュケーションに焦点化し、思想形成における教育の影響力を学ぶ。児童の権利、児童福祉について、国家、人種・民族という観点から考え、『児童権利宣言』、『児童の権利に関する条約』の意義について理解を深める。

第 12 回 戦後教育改革
戦前から戦後にかけて「よい子」像はどう変わったのか、学校、教育内容や教育方法はどうか変わったのか理解しよう。戦後制定された教育基本法は、民主国家の教育理念を謳う「前文」をもつ格式高い法律である。その教育基本法が平成18年に改正され、前文を筆頭に条文構成も大幅に改定された。改正前後の条文を比較し、戦後60年間の日本の教育発展を読み解こう。

第 13 回 学校では何を学ぶのか
今や多くの知識があふれている。学校では何を教えるのか。教育知は、増殖する知識の中からとある基準に基づいて選択されているものである。その基準を学び、我々の経験から、学校教育で扱われなくなった知識、新しく扱われるようになった知識をとりあげ、その背景を考えてみよう。なぜ算数の教科書で足したり引いたりするのはクッキーとキャンディーなのか、その答えもおのずと見えてくる。

第 14 回 改めて学校では何をどのように学ぶのか

アメリカ新教育の先駆者デューイの教育思想、教育実践から「新教育」を理解する。「社会的資質と個性の開花」、「学校は小さな社会」、「仕事」、「教育とは終わりなき成長」などデューイのキーワードを理解しよう。「生きる力」の育成、学習意欲を育むこと、学習の仕方を学ぶことが課題とされる現代の学校教育におけるデューイの実践の意義を学ぼう。

第 15 回 今までのまとめと今後の「教育学」へ
教育原理での学びをまとめつつ、今後、教育課程論、教育制度論、道徳教育論へと教育原理での学びがどのように発展していくのか理解しよう。

第 16 回 試験

〔成績評価の方法〕

最終試験（80％）と小課題（20％）

〔予習・復習に関する指示〕

①あらかじめ予習の意を込めて提起する教育学的問いについて、一週間かけて自らの答えを導き出さない。次週、指名されたら、瞬時に解答しなければならない。

②各回学んだことの要旨を文章化する。抜き打ち課題になることもある。

〔教科書・参考書〕

（教科書）

松下晴彦、伊藤彰浩、服部美奈『教育原理を組みなおす 変革の時代をこえて』名古屋大学出版会、2021.

（参考書）

森良和『歴史のなかの子どもたち』学文社

柳治男『〈学級〉の歴史学』講談社選書メチエ

増田幸弘『プラハのシュタイナー学校』白水社

ルソー、今野一雄『エミール』岩波文庫

コメニウス、井ノ口淳三『世界図絵』平凡社

〔その他履修上の注意事項〕

教育とは何か、人間は何を学んでいくのか等の問いかけについて、授業で得た知見に基づいて思考し、道筋を立てて文章で表現できるようになることを求める。その前段階として、授業中に口頭で積極的に表現することを要求する。最終的に説得力ある文章で表現できるようになることを意識して各自復習する必要がある。

〔オフィスアワーの設定〕

随時、研究室にて。

〔カリキュラムの中の位置づけ〕

本講義は教職課程入門である。したがって、教員免許取得が定かではない学生も受講してよい。しかし、あわよくば教員免許でもとっておこうという軽い気持ちでは、受講は続かないであろう。むしろ、人間について学びたい、今まで受けてきた学校教育を客観的に見つめてみたいという熱い思いをもち、教員免許とは関係なく受講する者のほうが受講に適している。なお、教員免許取得の有無にかかわらず受講できる教育学関係の講義は教育原理までである。

〔その他〕

教育学的問いとは何か。教育は人と社会の営みの基本であり、文明の発生と同時に、衣食住の中で行われてきた現象である。したがって、教育学的問いの範囲は広い。「学問は

人間の生活を豊かにしたか、あるいは否か」この問いへの自分なりの答えを熟成させてみよう。

〔資格関係〕

教職課程関連科目（履修の手引き別表参照）

〔キーワード〕

教育思想、子ども、教育方法、近代学校、教育知、新教育

教育心理学 (Educational Psychology)

602

生物資源環境学部 > 教職科目 > 2019年度入学者以降

1年
2単位 後期
木曜1限
実務経験なし
講義
澤田 忠幸

〔目的〕

教育における発達と学習に関して、心理学的な観点から理解できるようになる。主に発達や知識・動機などを中心とする学習者の心理学的側面の理解と、これをふまえて、有効な学習を導く教授学習方法と教育評価について理解することをめざす。

〔到達目標〕

1. 発達と学習の心理に関する基本的現象について説明することができる。
2. 学習活動を支える認知機能や動機づけ要因について説明することができる。
3. さまざまな教授学習方法と教育評価の方法を理解し、授業計画や評価表を作成することができる。

〔授業計画・内容（概要）〕

〔授業計画〕

- 第 1 回 発達と学習：教員の職務との関わりから
- 第 2 回 発達の理論（1）
発達の時期区分と人間の心身の発達の特徴
- 第 3 回 発達の理論（2）
ピアジェ、エリクソン等の代表的な発達の理論
- 第 4 回 発達領域のまとめ
①児童期・青年期の理解、②発達障がいの理解
- 第 5 回 学力をとらえる視点
- 第 6 回 学習と記憶
- 第 7 回 学習意欲の理論
- 第 8 回 習得・活用・探求の授業デザイン
- 第 9 回 批判的思考（クリティカルシンキング）力と態度を育てる
- 第 10 回 協同学習の理論と実践（1）
- 第 11 回 協同学習の理論と実践（2）
- 第 12 回 教育評価（1）学力評価の様々な方法
- 第 13 回 教育評価（2）教育目標と学力評価
- 第 14 回 授業教材を作ろう
- 第 15 回 試験や評価方法を考えよう

〔成績評価の方法〕

授業でのワークシート兼ミニレポート（15枚）60%。期末試験（ミニ学習ポートフォリオ）40%。

詳細は第1回の授業で説明する。

〔予習・復習に関する指示〕

〔教科書・参考書〕

（教科書）教科書は使用しない。授業では資料を配付する。（参考書）

藤村宣之（2009）「発達心理学」ミネルヴァ書房 ISBN978-4-623-05464-0

市川伸一（1995）「学習と教育の心理学」岩波書店 ISBN4-003923-7

楠見孝・子安増生・道田泰司（2011）「批判的思考力を育む」有斐閣 ISBN978-4-641-17380-4

杉江修治（2011）「協同学習入門」ナカニシヤ出版 ISBN978-4-7795-0573-7

中谷素之・伊藤崇達（2013）「ピア・ラーニング：学びあいの心理学」金子書房 ISBN978-4-7608-3256-9

田中耕治（2005）「よくわかる教育評価」ミネルヴァ書房 ISBN4-623-04333-9

〔その他履修上の注意事項〕

・教科書を使用せず担当者独自の内容構成の講義を行うので、欠席せず全授業を受講してほしい。

・授業ではグループワークを取り入れる予定である。積極的に参加してほしい。

・教養教育科目「心理学」（前期）を受講していることが望ましい。

〔オフィスアワーの設定〕

授業後および研究室で随時受け付ける。

〔カリキュラムの中の位置づけ〕

教員の免許状取得のための必修科目

〔その他〕

〔資格関係〕

教職課程関連科目（履修の手引別表参照）。教員の免許状取得のための必修科目（本授業は教員免許法において教育の基礎的理解に関する科目として設定された「幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程」に関する科目に対応する）。

〔キーワード〕

教育課程論 (Theory of Curriculum)

603

生物資源環境学部 > 教職科目 > 2019年度入学者以降

2年
2単位 前期
金曜1限
実務経験なし
講義

石倉 瑞恵 辻 直人

〔目的〕

教育課程編成の多様性と中心となる理論について理解し、新しい時代の教育課程を計画する基盤としての知識、思考力を身につける。さらに、新しい時代の教育課程は、子どもが未知の状況に対応しつつ「何かができる」ようになる

ことを目標として編成されなければならない。その目標に到達するために教師として身につけるべく教育方法、評価方法について学ぶ。最終的に、学校教育を経営的視点で捉える力、すなわち、マクロな視点で現行の教育課程を見つめ、社会的需要を察知し、未来を予測した上で教育実践を計画する力を身につける。

【到達目標】

- 1 学習指導要領の変遷について理解し、それぞれの学習指導要領の下、どのような教育課程が編成されたか、その結果どのような問題が指摘されたかについて説明することができる。
- 2 新学習指導要領の重点領域を踏まえて、「理科」教育の目標は何か、教育方法・内容にはどのような工夫が必要かについて理解し、説明することができる。
- 3 多様な教育実践を学び、教育課程編成の手法について理解し、説明することができる。
- 4 教育評価に関する考え方、方法を学ぶ。新しい評価方法を理科教育で活用する事例を自ら考えることができる。

【授業計画・内容（概要）】

【授業計画】

第 1 回 教育課程とは

教育課程の定義、教育課程の法的根拠、学習指導要領の構成と内容、教育課程をとらえる視点、すなわち、経験カリキュラムと教科カリキュラム、顕在的カリキュラムと潜在的カリキュラム等、第2回目以降の学習に必要な基本的知識について学習する。

第 2 回 学習指導要領の変遷（1）：経験カリキュラム

昭和22年、26年学習指導要領は、デューイの影響を強く受け、経験カリキュラムの色彩が強かった。経験カリキュラムの下での教科の扱い、推奨された教育方法である単元学習とコアカリキュラムについて学ぶ。経験学習と系統学習のメリットとデメリットについて考えてみよう。

第 3 回 学習指導要領の変遷（2）：系統主義へ

経験カリキュラムの下で生じた問題を把握した後、その問題を解決すべく改訂された昭和33年、43年学習指導要領の特色を把握する。高度経済成長とあいまって系統学習が重視され、優れた理数教育が導入された。その理論的背景となったブルーナーの「レディネス」について理解する。

第 4 回 学習指導要領の変遷（3）：ゆとりの導入

昭和40年代の教育問題は、系統主義への批判、「ゆとり」導入の契機となった。まずは、戦後から平成にかけての教育問題の質的変化を理解しよう。産業化、情報化等の社会情勢と合わせて、教育問題の要因を考えてみよう。昭和52年学習指導要領では教育内容が削減されたが、この選択について君はどのような評価を下すか。

第 5 回 学習指導要領の変遷（4）：生きる力の育成

生涯学習時代に入り、自己教育力の重要性が高まる。平成元年、平成10年学習指導要領では、「生きる力」を育成するカリキュラムへと移行する。具体的にどのような特色として表れたのかを学

ぶ。そして、生きる力の育成方法が確立しなかった理由、学力低下を引き起こした要因について考えてみよう。

第 6 回 ゆとり教育への反省と平成20年学習指導要領

PISA調査（2000年～）の結果から、日本の学力低下問題を把握する。そこから浮かび上がる学習習慣等の問題、その問題を踏まえて検討されたゆとり教育からの脱却方向性、平成20年学習指導要領のポイントについて学ぶ。

第 7 回 教育課程は今どのように変わろうとしているか

中学校では令和3年から、高校では令和4年から全面実施となった新学習指導要領において、教育課程は大きく変わろうとしている。これまでの文部科学省、中教審での議論を精読し、「2030年の社会」、「何ができるようになるか」、「社会に開かれた教育課程」、「カリキュラム・マネジメント」の4点から理解しよう。

第 8 回 Education2030とコンピテンシー

「生きる力」とはOECDのコンピテンシーを先取りした概念と言われる。コンピテンシーとは何だろうか。コンピテンシーをめぐる世界的カリキュラム改革の中で日本のカリキュラム改革はどのような位置づけにあるのだろうか。具体的に学校現場ではどのような取り組みを行っているのだろうか。

第 9 回 「何ができる」を評価するために

何を学んだのかを評価するためには、君たちになじみのある記述式試験（完成法、直接記述、選択肢問題、真偽問題等）が有効であるが、「何ができるようになったか」を評価するためには従来の記述式試験のみでは不適切である。新しい評価法についてアイデアを出し合おう。さらに、有効な評価法の一つであるパフォーマンス課題について深く理解しよう。

第 10 回 教育課程編成を見直す実践的視点（1）：社会・外国語を中心に

教育課程を見直す学校現場の事例を検証する。社会、および外国語ではどのような実践例があるか、特色ある実践例を分析し、教育課程編成の視点を学ぼう。

第 11 回 教育課程編成を見直す実践的視点（2）：数学・理科を中心に

教育課程を見直す学校現場の事例を検証する。数学、および理科ではどのような実践例があるか、特色ある実践例を分析し、教育課程編成の視点を学ぼう。

第 12 回 教教育課程における領域の意義（1）：特別活動と教育課程

教育課程における特別活動の意義を学ぶ。学校教育における特別活動の役割を変遷を追って学ぼう。また、新学習指導要領における特別活動への期待、画期的実践例を学び、特別活動の意義についての理解を深めよう。

第 13 回 教育課程における領域の意義（2）：総合的な探究の時間と教育課程

教育課程における「総合的な探究の時間」の意義を学ぶ。「総合的な探究の時間」導入の経緯とその変遷を追って、学校教育におけるその役割を学ぼう。また、新学習指導要領における総合的な探究の時間への期待、画期的実践例を学び、総合的な探究の時間の意義についての理解を深めよう。

第 14 回 社会状況の変化と教育課程のあり方

社会状況の変化にあわせて、教育目標、教育課程は変わっていかねばならない。学校は、どのように対応していくのか。教育課程を編成する学校現場の実際を学び、教育課程編成への具体的イメージを深めよう。

第 15 回 子どもの視点から教育課程を問い直す

教育目標、教育課程を変えるためには評価を変えなければならない。学校は子どもの成長を促す場である。子どもの成長を促す教育課程を編成する上では、評価のあり方を慎重に検討する必要がある。子どもの成長を促す評価について、事例に基づき理解を深めよう。

第 16 回 試験

〔成績評価の方法〕

試験50%、課題50%

教職課程の規範として欠席は認められない。

〔予習・復習に関する指示〕

①第2回目～第9回目：あらかじめ配布する資料を熟読し、説明できるほど理解しておく。授業では資料プラスアルファの内容をとり扱う上に、議論したり、発表したりする活動もあるので、熟読していなければ、主体的に授業に参加することはできない。

②第10回～第15回：資料を熟読しておく。

〔教科書・参考書〕

(教科書)

なし

(参考書)

片上宗二、木原俊行『新しい学びをひらく総合学習』ミネルヴァ書房

ブルーナー、鈴木祥蔵、佐藤三郎 訳『教育の過程』岩波書店
田中耕治『教育評価』岩波書店

文部科学省『中学校学習指導要領』

山崎保寿、黒羽正見『教育課程の理論と実践』学陽書房

〔その他履修上の注意事項〕

第1回～第9回は石倉が担当する。第10回から第15回は辻が担当し、夏季集中講義期間に2日間の集中講義形式で実施する。

社会の変化と学校教育の関係についての理解を深めるために、教育に関する新聞記事やニュースを積極的に読んだり見たりするようにする。

〔オフィスアワーの設定〕

石倉：随時、研究室にて。

辻：授業後。

〔カリキュラムの中の位置づけ〕

本講義は教育原理を修得した学生に対して開講する教育学中級レベルの講義である。したがって、教育原理を履修していない学生は受講することができない。しかしながら、意欲があるにもかかわらず唯この条件のために本講義を履修できないのは遺憾である。そのような学生は、授業第1回目よりも前に研究室を訪問しなさい。課題図書一冊と受講のチャンスを提供する。課題図書を熟読し、口頭試問において3つの問いに完璧に答えられたらば、受講を許可する。

〔その他〕

〔資格関係〕

教職科目関連科目（履修の手引き別表参照）

〔キーワード〕

学習指導要領、教育方法・内容、教育評価、教育課程編成、教育実践

教育制度論 (Educational System)

604

生物資源環境学部 > 教職科目 > 2019年度入学者以降
2年
2単位 後期
火曜 4限 火曜 5限
実務経験なし
講義
石倉 瑞恵

〔目的〕

教育は社会の産物である。社会の特性、社会が求める人間像に基づいて教育制度が生まれる。時代や社会が変化すれば教育も変わる。「教育制度論」では、様々な国・地域と時間軸の中を移動し、多様な教育の姿、教育の社会的機能、そして教育の社会変革力について学ぶ。「社会」というマクロなフィルターを通して教育や教育制度を認識し、教育のさらなる可能性について斬新なアイデアを構築する資質を身につけることを目的とする。

〔到達目標〕

- 1 日本の社会的特質と教育の特質の相関について、データに基づいた分析ができる。
- 2 「教育と雇用」、「教育平等」、「人種問題と教育格差」、「経済・教育格差」、「ジェンダーと教育」、「受験と私教育」、「民族・宗教と教育」、「教育開発と近代化」というテーマについて、問題の所在・生じた背景を筋道を立てて説明することができる。
- 3 各国の多様な教育を日本との比較に基づいて理解し説明するとともに、日本の教育の特質を他国との比較の上で分析し説明することができる。

〔授業計画・内容（概要）〕

〔授業計画〕

- 第 1 回 自分の経験に基づいて日本の教育の特質をとらえよう
日本の学校教育、日本全土で「同じこと」は何だろう。日本の学校教育に特有で、他国の学校教育

にはないこと、日本の学校教育にはないが、他国にあることは何だろう。君たちの経験から、教育制度理解への足掛かりを作ろう。

- 第 2 回 日本の教育を形づくる社会的背景
戦後日本はアメリカをモデルとして学校教育を再建した。戦前の学校（旧制中学校や高等女学校）は戦後どうなった？国立大学はどうして一府県に一つは必ずあるのか？短期大学はなぜできた？高等専門学校はなぜ必要だったのか？こんな、日本の学校教育のなぞを戦後民主主義、高度経済成長など、社会変化から考えてみよう。
- 第 3 回 教育制度研究へのファーストステップ：数字で分析、日本の教育
文部科学統計要覧を読解しよう。小学校児童数の変化、高校生徒数の変化、大学学部と学生数の変化等々、戦後から現在までの統計を見て、数字の中から学校教育の変化を見つけよう。そして、その社会的背景を考えてみよう。
- 第 4 回 大学と職業の分岐：ドイツの教育
日本では、大学で就職活動をして就職するというのが標準的進路である。しかし、ドイツは違う。職業教育と大学教育は別の役割を果たしている。そして、職業教育が非常に高いステータスをもっている。子どもたちは11歳でどんな職業に就くかを決定、職業教育への道、大学教育への道へとそれぞれ進む。人生における学びの時期、学びの場も人それぞれ違う！？
- 第 5 回 教育平等を考える：フランスに焦点化して
1789年フランス革命後に掲げられたフランスの精神性「自由・平等・博愛」は、今もなお学校教育理念の中心にある。コンドルセが主張した学校における「自由」とは学校教育が徳育を扱わないということの意味している。また、「機会の平等」は、均一な教育内容の提供として解釈されている。しかし、「自由」と「平等」はフランスで大きな学校問題を引き起こしている。それはなぜか。
- 第 6 回 女子教育は何を残したか：短期大学の意義
次回学習するアメリカの教育と比較するための前段階。日本の短期大学はアメリカのそれを模倣したものである。しかし、設置の意図と役割は大きく異なっている。日本は戦後、男女に等しく高等教育機会を保障した。高等教育就学者数が増加する中で、女子高等教育は異なった観点から論じられるようになる。同時に生じた高度経済成長は、女子高等教育の特殊化に拍車をかける。はたして、日本の短期大学の特色は？
- 第 7 回 アメリカの教育の多様性
アメリカの教育を「多様性」、「個性の開花」と「平等」をキーワードに学ぼう。コミュニティカレッジ、才能教育やマグネットスクールなど高等教育機会を保障する制度や多様な資質に対応する中等教育制度など、日本にはない制度がある一方で、多様性に根付くアメリカにおいては学習成果

の保証に困難も抱えている。前回の「日本の女子教育」との比較考察にもチャレンジ。

- 第 8 回 アメリカの人種問題と教育格差
黒人をめぐる教育問題を徹底的に理解しよう。公民権法は公教育における隔離や差別の禁止を定めたが、教育における差別と格差は依然としてなくなる。それは何故か考えてみよう。黒人問題というビッグテーマに隠れてしまいがちな他民族の問題も併せて検討したい。人種差別が再生産される仕組みをアメリカの文脈で説明できるようにしよう。
- 第 9 回 超受験社会と私教育熱：韓国を中心に
日本と同じくアメリカの教育制度を導入した韓国。日本との文化的類似性も高い。しかし、大学受験は、日本と比較し、より過熱する傾向にある。その社会的・歴史的・文化的背景を探ろう。1950年代から1960年代の両国の経済・社会発展の相違にカギがある。
- 第 10 回 学問で旅する世界時間旅行：大学とは何か
君たちが今いる「大学」について学ぼう。「学校」の中で一番最初に制度化したのが大学だ。（学校は、小学校からできたわけではないということ。）その成立は中世にさかのぼる。しかも、大学は初めから国際機関だった。パリ、モンプリエ、サレルノ、プラハ、中世大学の旅に出発だ。今の教育制度に残してくれたものを見つけに行こう。
- 第 11 回 近代学校の功罪：アフリカの教育
アフリカにどのようなイメージを抱いているだろうか。初等学校の就学率や識字率が低い？ところが一部の国では、韓国のように過激な大学受験が繰り返されている。大学受験を背景に、地域間教育格差はより深刻な問題となってくる。宗主国の教育制度を導入したことにより、アフリカ社会にはどのような矛盾が生じたのか。いくつかの国に焦点を当てて考えてみよう。
- 第 12 回 宗教と教育：イスラム圏における近代化の様相
イスラム世界には、もともとイスラム系学校教育制度が存在していた。近代化（西洋化）を受容し、イスラム宗教系・世俗系の二つの教育体系をもつ国もある。イスラム宗教系の学校においても西洋科目を導入する学校がある。一方で、近代化が困難なイスラム社会も存在する。インドネシア、サウジアラビア、パキスタンなどを中心にイスラム社会の抱える教育の問題と近代化の弊害を考える。
- 第 13 回 コンピテンシーに向かう諸外国の教育
OECDが各国に対して示した学習方向性「ラーニングフレームワーク2030」では、「変革を起こす力のあるコンピテンシー」という概念が提唱されている。そのようなコンピテンシーを育成するうえでのヒントとなる学校教育実践を学んでみよう。シンガポール、インドネシア、ベルギーの特色ある学校に焦点化する。日本の教育改革のために何かヒントを得られないだろうか。

第 14 回 高大接続：入試改革の行方

大学入学者選抜には、高校教育と大学教育、及びその接続の在り方を一体的に改革する影響力がある。これまでの日本の大学入試がたどった軌跡（共通一次学力試験→大学入試センター試験→大学入学共通テスト）の中で、どのような課題を解決してきたのかを学ぼう。さらに、大学入学共通テストにおいて出題の傾向と質はいかに変わったのか、大学入試改革を通して大学と高校にどのような授業改善メッセージを伝えているのか、考えてみよう。

第 15 回 日本の教育の特質と方向性：国際比較にもとづいたまとめ

これまで扱ってきた国とテーマを頼りに日本の教育を俯瞰してみよう。日本の教育の特質はどこにあるのか、国際比較の観点から総括的に考えてみよう。

第 16 回 試験

〔成績評価の方法〕

最終試験（70％）小課題（30％）

教職課程の規範として、欠席は認められない。

〔予習・復習に関する指示〕

① 次回のテーマについて学ぶポイントを予告するので、インターネットなどを用いて一般的な情報を入手し、専門的学びのための土台を作っておくことが求められる。その予習も課題にすることがある。

② 授業の初めに小課題を提示するので、授業中は配布資料を手掛かりとしてノートを取り、授業後にはまとめ課題（復習）として論述する。復習は、授業での学びを提示されたテーマを中心として理路整然と記述することである。

〔教科書・参考書〕

（教科書）

適宜資料を配布する。

（参考書）

コンドルセ、阪上孝 訳『フランス革命期の公教育論』岩波文庫

二宮皓『世界の学校』学事出版

文部科学省『諸外国の初等中等教育』明石書店

横尾壮英『中世大学都市への旅』朝日選書

浅野啓子／佐久間弘展『教育の社会史』和泉書館

〔その他履修上の注意事項〕

本講義は、教育を経営する教師としての資質を育むことを目的としている。将来学校教育を担う者としての自覚をもち、教育についてより多くを学ぼうとする意欲と態度で授業に臨まなければならない。

授業内容を確実に理解するのみならず、日頃から、ニュースや新聞を視聴し、教育に関することや世界情勢に関心を向けておくことが必要である。最新の教育問題について自分なりに多角的に批判・検討するトレーニングをしておくことが望ましい。

〔オフィスアワーの設定〕

随時、研究室にて。

〔カリキュラムの中の位置づけ〕

教職課程関連科目の中では発展レベルに相当する。教育原理、教育課程論を修得していないと、到達目標を達成することはできない。したがって、この2科目を履修し終えた者のみが受講することができる。

〔その他〕

本講義では日本、欧米の教育のみならず、アジア・アフリカの教育を幅広く扱う。多様な視点から日本の教育を見直すヒントを得られるであろう。しかし、これらの学びは、日本の教育に還元することのみを目的としているわけではない。教育問題を抱える国、学校教育が普及していない国に対しても思いをはせ、どのような支援の方法があるのかについて積極的に考えるグローバルな資質を備えてほしい。

〔資格関係〕

教職課程関連科目（履修の手引別表参照）

〔キーワード〕

教育と雇用、教育平等、人種問題と教育格差、経済・教育格差、ジェンダーと教育、受験と私教育、民族・宗教と教育、教育開発と近代化

特別支援教育論（Introduction to special support education）2018年度

605

生物資源環境学部 > 教職科目 > 2019年度入学者以降
2年

1単位 後期

月曜5限

実務経験なし

講義

瀬戸 美津子

〔目的〕

教職に必要な知識として、特別の支援とはどういうことか、個別の教育的ニーズにはどのようなものがあるのかを、実際の事例等を通して理解し、対応する資質を身に付ける。

〔到達目標〕

特別の支援を必要とする幼児、児童、生徒が、その子らしく生きる力を身に付けていくことができるよう、学習上または生活上の個別の困難を理解し、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。また、「通級による指導」および「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解する。

〔授業計画・内容（概要）〕

〔授業計画〕

第1回：特別支援教育の基礎

特別支援教育の制度の理念や仕組み

特別支援学校の教育／小学校・中学校等における特別支援教育

第2回：各障害に応じた教育の基本（1）

視覚障害、聴覚障害

第3回：各障害に応じた教育の基本（2）

肢体不自由、病弱・身体虚弱

第4回：各障害に応じた教育の基本（3）

知的障害、重複障害

第5回：各障害に応じた教育の基本（4）

言語障害、情緒障害

第6回：各障害に応じた教育の基本（5）

発達障害

第7回：インクルーシブ教育システムの構築

第8回：障害のある子どもの家族の心理と支援

第9回：定期試験

〔成績評価の方法〕

毎回の小課題を含むふり返しシート（20％）および定期試験（80％）

〔予習・復習に関する指示〕

〔教科書・参考書〕

（参考書）

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所（2000）「特別支援教育の基礎・基本—新学習指導要領対応—」ジエース教育新社

石川県特殊教育百年史編さん委員会（1981）「石川県特殊教育百年史」石川県教育センター

日本精神神経学会（2014）「DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル」医学書院

阿部利彦・編著（2017）「決定版！授業のユニバーサルデザインと合理的配慮 子どもたちが安心して学べる授業づくり・学級づくりのワザ」金子書房

全国特別支援教育推進連盟（2016）「幼稚園・小中高等学校における特別支援教育の進め方②校内支援体制を築くために」ジエース教育新社

全国特別支援教育推進連盟（2016）「幼稚園・小中高等学校における特別支援教育の進め方③交流及び共同学習を進めるために」ジエース教育新社

喜多一憲・監修 堀場純矢・編集（2017）「児童家庭福祉」株式会社みらい

中田洋二郎（2002）「子どもの障害をどう受容するか」大月書店

（参考DVD）

朝日新聞厚生文化事業団「親と教師のための 自閉症の人が見ている世界～自閉症の人を正しく理解する～」

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「発達障害教育情報センター研修講義—ver.4—」

〔その他履修上の注意事項〕

基本的に欠席せず、全回出席すること。

〔オフィスアワーの設定〕

授業の前後に適宜応じる。

〔カリキュラムの中の位置づけ〕

教員の免許状取得のための必修科目（本授業は教員免許法において教育の基礎的理解に関する科目として設定された「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解に関する科目」に対応する）。

〔その他〕

〔資格関係〕

〔必修〕教職課程関連科目（履修の手引別表参照）

〔キーワード〕

理科教育法Ⅰ（Methodology of Teaching Science I）

610

生物資源環境学部 > 教職科目 > 2019年度入学者以降
2年

2単位 前期集中

実務経験あり

講義

松山 友之

〔目的〕

理科教育の目的・内容・方法・評価に関する基本的な知識を身に付け、学校教育における理科教育の位置づけや意義について考察できるようになる。

〔到達目標〕

1. 科学技術・社会・歴史等の文献で、理科教育の存在意義を理解することができる。
2. 理科の学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができる。
3. 理科教育の目的・内容・情報機器を活用した学習指導方法・評価等に関する基本的な考え方を理解する。
4. 観察、実験の安全管理・事故防止、薬品管理等ができるようになる。
5. 理科教師として必要な、基本的な教師の構えについて説明できる。

〔授業計画・内容（概要）〕

〔授業計画〕

- 第1回 イントロダクション、教育課程上の教科「理科」の存在意義
自身の中学校や高校の理科の授業を思い出し、どのような理科の授業が効果的か考えをまとめ、問題意識を明らかにして「理科」の存在意義について考える。
- 第2回 教科書を手がかりにした理科教育の現状と課題
現行の中学校や高校の教科書をもとに理科教育の現状と授業実践の課題についてまとめる。
- 第3回 理科教育の歴史（科学の動向と理科教育）
日本の理科教育の歴史を概観し、最新の科学の動向と理科教育のあり方について考え、実際教壇に立って授業を行うために必要なものは何かを考える。
- 第4回 理科教育の目標・目的
理科教育の歴史や学習指導要領をもとに理科教育の目標・目的の変遷についてまとめ、新指導要領の目標・目的について分析する。
- 第5回 学習指導要領理科の構造と内容構成
学習指導要領の理科編の構造と内容構成について調べ、学習指導要領を読み解き方やそこからどのように授業のねらいや展開を考え授業を構想するかについてまとめる。
- 第6回 理科学習論Ⅰ：問題解決
授業の構想を練る場合、理科の学習論として日本で重視されている問題解決について考え、その歴

史や具体的に授業でどのように生かすかについて考える。

- 第 7 回 理科学習論Ⅱ：探究学習
授業の構想を練る場合、理科の学習論として、日本の理科教育の中心的な考え方である探究学習をその歴史と具体的な進め方をもとに考える。
- 第 8 回 理科学習論Ⅲ：その他の多様な学習指導法
理科の授業中に行われるグループ学習等の学習形態の工夫やジグソー法などの指導法の工夫について理解を深める。
- 第 9 回 理科学習における「実験」
理科の授業の中で中心的な学習活動である「実験」について、予想の立て方や準備の仕方、結果とその考察について代表的な実験の事例をもとに理解する。
- 第 10 回 理科学習における「観察」
理科の授業の中で中心的な学習活動の一つである「観察」について、ルーペや顕微鏡などの基本的な使い方とスケッチ等の技能について理解する。
- 第 11 回 理科学習における「飼育・栽培」
理科学習において特に生物分野の観察を支える「飼育・栽培」について、その基本的な技能と生命の尊重等について考える。
- 第 12 回 理科学習の評価Ⅰ：評価の考え方と観点別評価・評定
理科の学習とその評価のあり方について、学習指導要領をもとに考えるとともに、指導要録から観点別評価の意味と具体的な方法について考える。
- 第 13 回 理科学習の評価Ⅱ：評価問題の作成と指導要録
理科学習の評価について、評価問題をどのように作成し、得られた結果をもとにどのように指導要録に学習の状況をまとめるかについて考える。
- 第 14 回 理科室運営・事故防止
理科室の管理と運営及び実験等の事故防止について、実際の事例をもとに考え、安全面で配慮すべきことを理解する。
- 第 15 回 理科教師論
理科の授業はどうあるべきかについて問題意識をもって学んできたことをまとめ、理科教師としてどのように授業に臨むべきかについて考える。

〔成績評価の方法〕

毎回のワークシートによる学びの振り返りおよび課題小レポート（50%）および定期試験（50%）により評価する。

〔予習・復習に関する指示〕

予習：シラバスを参考に講義に関する理科の学習内容について調べる。

復習：学んだ理科の学習内容を実際の授業の中でどのように生かすか考えをまとめる。

〔教科書・参考書〕

（教材）中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領解説 理科編（平成29年6月 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成21年3月告示

文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 理科編（平成21年12月 文部科学省）

（参考書）その都度、別途提示する

〔その他履修上の注意事項〕

〔オフィスアワーの設定〕

授業の前後で随時受け付ける。

〔カリキュラムの中の位置づけ〕

〔その他〕

実務経験に関して：富山県公立中学校に勤務。実際の授業の経験をもとに理科授業のあり方について講義する。

〔資格関係〕

・教職課程関連科目（履修の手引別表参照）

・中学校（理科）必修科目

・高校（理科）必修科目

〔キーワード〕

理科教育法Ⅱ（Methodology of Teaching Science II）

611

生物資源環境学部 > 教職科目 > 2019年度入学者以降
2年
2単位 後期集中
実務経験なし
講義
松山 友之

〔目的〕

生物・地学分野における教材研究の視点と方法を理解し、多様な学習指導法と学指導方法に対応した評価方法を身に付ける。

〔到達目標〕

1. 理科における教材研究の意味とその方法を説明することができる。
2. 生物・地学分野に関する教材研究を行い、学習内容の系統性と学問領域との関連、学年や領域に応じた指導上の留意点を理解する。
3. 生物・地学分野に関連する科学史や情報機器を教材研究に活用することができる。
4. 理科学習で用いられる多様な学習指導法を身に付ける。

〔授業計画・内容（概要）〕

〔授業計画〕

第 1 回 教材研究の目的と方法

第 2 回 生物分野の教材研究（1）

第 3 回 生物分野の教材研究（2）

学年に応じた学習指導法の分析と考察（含：演習）

第 4 回 生物分野の教材研究（3）

第 5 回 生物分野の教材研究（4）

第 6 回 生物分野の教材研究（5）

第 7 回 地学分野の教材研究

学年に応じた学習指導法の分析と考察（含：演習）

第 8 回 地学分野の教材研究

第 9 回 地学分野の教材研究

- 領域に応じた多様な学習指導法の分析と考察
(含：演習)
- 第10回 地学分野の教材研究
- 第11回 地学分野の教材研究
領域に応じた多様な学習指導法の分析と考察
(含：演習)
- 第12回 学習指導法の最新事情Ⅰ
アクティブラーニング(含：演習)
- 第13回 学習指導法の最新事情Ⅱ
ジグソー法 ほか(含：演習)
- 第14回 学習指導法の最新事情Ⅲ
ESDの視点を重視した学習指導(含：演習)
- 第15回 学習指導法の最新事情Ⅳ
総合的な学習の時間と一体化した学習指導(含：
演習)

〔成績評価の方法〕

毎回のワークシートによる学びの振り返りおよび課題小レポート(50%)および定期試験(50%)により評価する。演習への参加態度も評価の対象とするので、積極的な参加を求める。

〔予習・復習に関する指示〕

予習：シラバスを参考に講義に関する理科の学習内容について調べる。

復習：学んだ理科の学習内容を実際の授業の中でどのように生かすか考えをまとめる。

〔教科書・参考書〕

(教材) 中学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)

中学校学習指導要領解説 理科編(平成29年6月 文部科学省)

高等学校学習指導要領(平成21年3月告示 文部科学省)

高等学校学習指導要領解説 理科編(平成21年12月 文部科学省)

(参考書) その都度、別途提示する

〔その他履修上の注意事項〕

〔オフィスアワーの設定〕

授業の前後で随時受け付ける。

〔カリキュラムの中の位置づけ〕

〔その他〕

〔資格関係〕

- ・教職課程関連科目(履修の手引別表参照)
- ・中学校(理科)必修科目
- ・高校(理科)選択科目

〔キーワード〕

理科教育法Ⅲ (Methodology of Teaching Science III)

612

生物資源環境学部 > 教職科目 > 2019年度入学者以降
3年
2単位 前期
火曜4限
実務経験あり
講義
四ヶ浦 弘

〔目的〕

理科教育の目的・内容・方法・評価に関する基本的な知識を身に付け、学校教育における理科教育の位置づけや意義について考察できるようになる。

〔到達目標〕

1. 科学技術・社会・歴史等の文献で、理科教育の存在意義を理解することができる。
2. 理科の学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができる。
3. 理科教育の目的・内容・情報機器を活用した学習指導方法・評価等に関する基本的な考え方を理解する。
4. 観察、実験の安全管理・事故防止、薬品管理等ができるようになる。
5. 理科教師として必要な、基本的な教師の構えについて説明できる。

〔授業計画・内容(概要)〕

- 第1回 周期表で何をどのように教えるか その1
周期表での位置で元素の性質を予測する。
事故と安全1
- 第2回 周期表で何をどのように教えるか その2
物質の性質を予測する指標としての密度、融点。
- 第3回 金属とものづくり 青銅鏡を作る
- 第4回 三態変化 液体窒素をどう扱うか。
沸点、融点を指標に物質の世界を見渡す。
事故と安全2
- 第5回 酸化還元 その1 金属で酸化還元を考える。各人が自作テスターを紹介する。

事故と安全3

- 第6回 酸化還元 その2 燃焼と爆発で酸化還元を考える。
事故と安全4
炎色反応 リングバーナー、針金、スプレー炎色反応のメリットと注意点
- 第7回 酸、アルカリと塩
- 第8回 食品の科学
- 第9回 生物と細胞 その1
- 第10回 電流の性質とその利用 その1
- 第11回 電流の性質とその利用 その2
- 第12回 音による現象 中1教科書(啓林館) p196~205
トーキングテープ、ワイングラス、バンジーチャイムを使い「音と振動」の授業を考える。
- 第13回 力による現象
- 第14回 運動とエネルギー

第15回 地球、月、太陽「宇宙への道」模型で実感する太陽系と宇宙の大きさ

〔授業計画〕

- 第 1 回 理科教育で何をどのように教えるか 柱となる周期表 その1 金属と非金属
金属光沢と通電性など金属と非金属を見分ける方法を学び、周期表の位置で物質の性質を予測できるようにする授業を考える。事故と安全1
ICT教育をどのように取り入れるかを学ぶ。
さびやすさ、電導性、触媒作用、融点などで銀箔と白金箔の見分け方を紹介する。これらに活用できるテスターを考案し、4週間後に発表する。
- 第 2 回 理科教育で何をどのように教えるか 柱となる周期表 その2 密度を例に物質の世界を見渡す地図、指標としての周期表を例に考える
金属キューブ、ニセ金インゴット等を使い、密度で物質を見分ける方法とこれらを取り込んだ授業を考える。
- 第 3 回 金属とものづくり
錫を融解して、銅板を溶かし込み、磨いて青銅鏡を作ってみることを通じ、理科教育におけるものづくりの意味を考える。
- 第 4 回 三態変化 液体窒素をどう扱うか。
液体窒素と使い、沸点融点を指標に物質の世界を見渡す授業を考える。 事故と安全2
- 第 5 回 酸化還元 その1 金属と酸化還元
各人が自作テスターを紹介する。Ca、Mg、Al、Feやテルミット反応で鉄を取り出すこと、鉄の硫化を素材に「酸化還元」の授業を考える。 事故と安全3
- 第 6 回 酸化還元その2 燃焼と爆発
炎色反応、ロウソクの科学を例に「酸化、還元」の授業を考える。 事故と安全4
- 第 7 回 酸、アルカリと塩
指示薬としてのマロウブルー、濃硫酸の使い方等を学ぶ。 中3教科書（啓林館）p112～135
- 第 8 回 食品の化学
豆腐、チョコフォンデュ、カルメ焼き、べっこう飴を素材に食品を用いた授業をあり方を考える。
- 第 9 回 生物と細胞
単細胞生物 ゴウリムシを素材に顕微鏡、ライトスコープ、マイクロスコープ等を使い「生物と細胞」の授業を考える。中2教科書（啓林館）p4～13
- 第 10 回 電流の性質とその利用 その1
電池と回路、電流計、電圧計等について学ぶ。中2教科書（啓林館）p182～222
- 第 11 回 電流の性質とその利用 その2
電流と磁界をクリップモーターの制作等を通じて学ぶ。

第 12 回 音と振動
トーキングテープ、ワイングラス、バンジーチャイムを素材に、「音と振動」の授業を考える。中1教科書（啓林館）p196～205

第 13 回 力による現象
重さと質量、浮力と密度等について考える。中1教科書（啓林館）p206～227

第 14 回 運動とエネルギー
力と運動、エネルギーの変換等について実験を通して考察しながら学ぶ。
中3教科書（啓林館）p138～200

第 15 回 月、太陽、地球、宇宙
仮説実験授業「宇宙への道」等を使い、模型を活用した月、太陽、地球、宇宙の授業を考える。中3教科書（啓林館）p32～49

〔成績評価の方法〕

講義内容に関するレポート提出と「授業の振り返り」により評価する。

〔予習・復習に関する指示〕

予習：シラバスを参考に講義に関する理科の学習内容について調べる。

復習：学んだ理科の学習内容を実際の授業の中でどのように生かすか考えをまとめる。

〔教科書・参考書〕

（教科書）使用しない

（参考書）

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領解説 理科編（平成29年6月 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成21年3月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 理科編（平成21年12月 文部科学省）

高等学校 「科学と人間生活」教科書（東京書籍）

その他、参考資料を適宜印刷配布する。

〔その他履修上の注意事項〕

〔オフィスアワーの設定〕

授業の前後で随時受け付ける。

〔カリキュラムの中の位置づけ〕

〔その他〕

実務経験に関して：40年以上にわたり石川県内の高等学校に勤務。普通科の教諭として理科教育（主に化学）に携わってきた経験をもとに理科教育の方法について、講義を行う。

〔資格関係〕

教職課程関連科目（履修の手引別表参照）

・中学校教諭一種（理科）必修科目

・高等学校教諭一種（理科）必修科目

〔キーワード〕

生物資源環境学部 > 教職科目 > 2019年度入学者以降
3年
2単位 後期
火曜4限
実務経験あり
講義
四ヶ浦 弘

〔目的〕

理科教育の目的・内容・方法・評価に関する基本的な知識を身に付け、学校教育における理科教育の位置づけや意義について考察できるようになる。

〔到達目標〕

1. 科学技術・社会・歴史等の文献で、理科教育の存在意義を理解することができる。
2. 理科の学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができる。
3. 理科教育の目的・内容・情報機器を活用した学習指導方法・評価等に関する基本的な考え方を理解する。
4. 観察、実験の安全管理・事故防止、薬品管理等ができるようになる。
5. 理科教師として必要な、基本的な教師の構えについて説明できる。

〔授業計画・内容(概要)〕

- 第1回 高校で扱う周期表と金属 ICT教育をどのように取り入れるか その1
- 第2回 周期表と元素の性質 実物付き周期表を作る。
- 第3回 合金(真鍮)作りと針金細工
- 第4回 酸化還元。その1 電池 ICT教育をどのように取り入れるか その2
電気分解で金、銀、銅箔を溶かし、また析出させる。
- 第5回 酸化還元 その2 電気分解 ICT教育をどのように取り入れるか その3
- 第6回 酸、塩基、塩
- 第7回 プラスチックをどう扱うか
サランラップとポリエチレンラップの見分け方。プラスチックの再利用。
- 第8回 科学読み物をどう授業で活用するか。その1
- 第9回 電磁波をどう扱うか。その1 虹と光を素材に考える。
- 第10回 科学読み物をどう授業で活用するか。その2
- 第11回 電磁波をどう扱うか その2 電子レンジとマイクロ波1 マイクロ波と極性分子
- 第12回 電磁波をどう扱うか その3 電子レンジとマイクロ波2 マイクロ波と金属
- 第13回 電流と磁界、発電とモーター
第12回 共有結合結晶と非晶質
ガラスと水晶の見分け方5つを実験で確かめる。
ガラス細工の注意点

- 第14回 ガラス細工体験 マドラーを作る。
- 第15回 教科の枠を超えた授業の在り方を考える
実験で楽しむ宮沢賢治「銀河鉄道の夜」を例に

〔授業計画〕

- 第1回 理科教育で何をどのように教えるか 柱となる教材 ①周期表 その1
高校では、物質の世界を見渡す地図、指標となる周期表をどのように取り扱えるかを考える。
- 第2回 実物付き周期表を作って元素の性質を学ぶ
20種類の元素を貼り付けた周期表(大小2種類)を作り、元素の性質を学ぶ方法を考える。
- 第3回 合金(真鍮)作りと針金細工
銅線に亜鉛メッキを施し、加熱して真ちゅうにすることを体験する。それをもとに針金細工を体験し、その授業での活用を考える。
- 第4回 酸化、還元と電池
ボルタ、ダニエル電池を作ってみる。ICTでこの分野をどう取り扱えるか、指導例を基に考えてみる。
- 第5回 酸化還元と電気分解
金、銀、白金箔を使って電気分解を行う。ICTでこの分野をどう取り扱えるか、指導例を基に考えてみる。
- 第6回 酸、塩基、塩
金属、非金属と酸塩基塩の相関関係をCaやCを例に学ぶ。ここから環境問題を考えてみる。
- 第7回 プラスチックをどう扱うか
サランラップとポリエチレンラップの見分け方。プラスチックの再利用を授業でどう扱うかを考える。高等学校「科学と人間生活」教科書(東京書籍) p66~p75
- 第8回 科学読み物を理科の授業でどう活用するか その1
「じゃがいもの花と実」(板倉聖宣著)を通して科学読み物の活用を考える。2週間後に各人が選択した1冊を紹介しあう。
- 第9回 電磁波をどう扱うか その1 虹と光を素材に電磁波を考える。
自然界の虹を例に、光とスペクトルを学ぶ授業を考える。
- 第10回 科学読み物を理科の授業でどう活用するか その2
各人が配布された課題図書一覧から一冊選び、その内容を紹介する。
- 第11回 電磁波をどう扱うか その2 マイクロ波と極性分子
極性分子とマイクロ波を例に考察する。高等学校「科学と人間生活」教科書(東京書籍) p118~p124
- 第12回 電磁波をどう扱うか その3 マイクロ波と金属
電子レンジを使いマイクロ波と金属の関係を扱う授業を考える。高等学校「科学と人間生活」教科書(東京書籍) p118~p124
- 第13回 共有結合結晶と非晶質

ガラスと水晶の見分け方5つを実験で確かめることを体験してみる。ガラス細工の注意点を学び、次回の実習に備える。

第14回 ガラス細工体験
ガラス細工の基本とマドラー作りを体験してみる。

第15回 教科の枠を超えた授業の在り方を考える
宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」に出てくる科学的表現を実際に実験で体験することを通し、教科の枠を超えた学習の在り方を考える。

〔成績評価の方法〕

講義内容に関するレポート提出と「授業の振り返り」により評価する。

〔予習・復習に関する指示〕

予習：シラバスを参考に講義に関する理科の学習内容について調べる。

復習：学んだ理科の学習内容を実際の授業の中でどのように生かすか考えをまとめる。

〔教科書・参考書〕

(教科書) 使用しない。適宜テキストを配布またはムードル上に添付する。

(参考書)

中学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)

中学校学習指導要領解説 理科編(平成29年6月 文部科学省)

高等学校学習指導要領(平成21年3月告示 文部科学省)

高等学校学習指導要領解説 理科編(平成21年12月 文部科学省)

高等学校「科学と人間生活」教科書(東京書籍)

その他、参考資料を適宜印刷配布する。

〔その他履修上の注意事項〕

〔オフィスアワーの設定〕

授業の前後で随時受け付ける。

〔カリキュラムの中の位置づけ〕

〔その他〕

実務経験に関して：40年以上にわたり石川県内の高等学校に勤務。普通科の教諭として理科教育(主に化学)に携わってきた経験をもとに理科教育の方法について、講義を行う。

〔資格関係〕

教職課程関連科目(履修の手引別表参照)

・中学校教諭一種(理科) 必修科目

・高等学校教諭一種(理科) 必修科目

〔キーワード〕

農業教育法Ⅰ (Methodology of Teaching Agriculture I)

614

生物資源環境学部 > 教職科目 > 2019年度入学者以降
2年

2単位 後期

水曜 5限

講義

県立大学教員(非常勤講師)

〔目的〕

※確定次第掲載

〔到達目標〕

※確定次第掲載

〔授業計画・内容(概要)〕

〔授業計画〕

※確定次第掲載

〔成績評価の方法〕

※確定次第掲載

〔予習・復習に関する指示〕

※確定次第掲載

〔教科書・参考書〕

※確定次第掲載

〔その他履修上の注意事項〕

※確定次第掲載

〔オフィスアワーの設定〕

※確定次第掲載

〔カリキュラムの中の位置づけ〕

※確定次第掲載

〔その他〕

※確定次第掲載

〔資格関係〕

・教職課程関連科目(履修の手引別表参照)

・高校(農業)の必修科目

〔キーワード〕

※確定次第掲載

農業教育法Ⅱ (Methodology of Teaching Agriculture II)

615

生物資源環境学部 > 教職科目 > 2019年度入学者以降
3年

2単位

講義

県立大学教員(非常勤講師)

〔目的〕

※確定次第掲載

〔到達目標〕

※確定次第掲載

〔授業計画・内容(概要)〕

〔授業計画〕

※確定次第掲載

〔成績評価の方法〕

※確定次第掲載

〔予習・復習に関する指示〕

※確定次第掲載

〔教科書・参考書〕

※確定次第掲載

〔その他履修上の注意事項〕

※確定次第掲載

〔オフィスアワーの設定〕

※確定次第掲載

〔カリキュラムの中の位置づけ〕

※確定次第掲載

〔その他〕

※確定次第掲載

〔資格関係〕

- ・教職課程関連科目（履修の手引別表参照）
- ・高校（農業）の必修科目

〔キーワード〕

※確定次第掲載

生徒・進路指導論 (Student and Career Guidance)

621

生物資源環境学部 > 教職科目 > 2019年度入学者以降
 2年 前期
 2単位 水曜5限
 実務経験なし 講義
 澤田 忠幸

〔目的〕

生徒指導・進路指導の目標や学校組織の中での体制、各教師が果たすべき生徒指導・進路指導の役割や注意点について理解する。そのうえで、生徒の学業不振、不登校、いじめ、非行、問題行動、進路選択、発達障害などの問題について、生徒指導や進路指導、キャリア形成支援に必要な理解を得ることを目指す。

〔到達目標〕

1. 生徒指導に必要な基礎知識（意義や原理、生徒指導の体制）について説明することができる。
2. 障がいのある児童生徒への支援のあり方を含め、個別の課題を抱える児童生徒の指導上の課題や対応の視点について理解し、自身の考えを述べるができる。
3. 進路指導について、キャリア形成の支援という観点から、ガイダンスおよびカウンセリングの視点を踏まえた取り組み方について説明することができる。

〔授業計画・内容（概要）〕

定期試験は実施しない

〔授業計画〕

- 第 1 回 生徒指導・進路指導とは
- 第 2 回 生徒指導の体制と連携 (1)
校務分掌と校内連携, 生徒指導計画の策定
- 第 3 回 生徒指導の体制と連携 (2)
地域や関係機関との連携

第 4 回 生徒指導の体制と連携 (3)

生徒指導と法制度（校則, 懲戒と体罰, 出席停止など）

第 5 回 生徒指導の進め方（教育課程・学級運営と生徒指導）と危機管理

第 6 回 個別の課題を抱える児童・生徒への指導 (1)
いじめとネットトラブル

第 7 回 個別の課題を抱える児童・生徒への指導 (2)
不登校・中途退学

第 8 回 個別の課題を抱える児童・生徒への指導 (3)
非行と問題行動

第 9 回 個別の課題を抱える児童・生徒への指導 (4)
児童虐待・性の課題, 命の教育と自殺の防止

第 10 回 個別の課題を抱える児童・生徒への指導 (5)
特別な支援が必要な生徒への対応

第 11 回 教育課程における進路指導・キャリア教育

第 12 回 現代社会におけるキャリア教育：働くこと, 学ぶこと, 生きること

第 13 回 キャリア教育の授業デザイン：中学・高校編

第 14 回 生徒のキャリア形成を支援する理論と方法

第 15 回 まとめ

（児童生徒の人格形成と自己実現をめざした生徒指導・進路指導を考える）

〔成績評価の方法〕

授業内でのワークシート兼ミニレポート（15枚）60%，期末試験（ミニ学修ポートフォリオ）40%。

〔予習・復習に関する指示〕

〔教科書・参考書〕

（教材）教科書は使用しない。資料は適宜配付する。（参考書）

文部科学省（平成22年3月）「生徒指導提要」, 教育図書
文部科学省 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター 編（2016）

「変わる！キャリア教育：小・中・高等学校までの一貫した推進のために」, ミネルヴァ書房

本多友巳・内田利 編著（2016）「初めて学ぶ生徒指導・教育相談」, ミネルヴァ書房

下村英雄（2009）「キャリア教育の心理学」, 東海教育研究所

その他、授業中随時、参考書を紹介する。

〔その他履修上の注意事項〕

欠席せずに全授業を受講してほしい。積極的にグループワークに参加すること。

〔オフィスアワーの設定〕

授業後および研究室（B101）で随時受け付ける。

〔カリキュラムの中の位置づけ〕

教職課程関連科目（履修の手引別表参照）。教員の免許状取得のための必修科目（本授業は教員免許法において道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目として設定された「生徒指導の理論及び方法」「進路指導及びキャリア教育の理論及び方法」に対応する）。

〔その他〕

定期試験は実施しない

〔資格関係〕

教員の免許状取得のための必修科目

〔キーワード〕

特別活動及び総合的な学習の時間の指導法
(Methodology on Special Activities and Period for Integrated Studies) 2019年度以前

622

生物資源環境学部 > 教職科目 > 2019年度入学者以降
2年
2単位 前期集中
その他
実務経験なし
講義
橋本 定男

〔目的〕

中等教育における特別活動及び総合的な学習の時間の意義と目的、指導方法上の特質や方法原理、両者の関連等を学んだ上で、特別活動においては各領域(学級活動・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事、関連して部活動)の活動内容について、総合的な学習の時間においては横断的・総合的な学習による実社会・実生活の課題探求について、具体的な実践や効果的な指導方法と評価方法、指導計画の作成にかかわる学習や議論を工夫し、それぞれの専門的事項に関する理解を深め、知識・技能を身に付ける。

〔到達目標〕

1. 特別活動及び総合的な学習の時間を指導する上での基本的な視点を身に付ける。
2. 特別活動及び総合的な学習の時間の授業や活動について、指導計画や動構想を立てることができる。

〔授業計画・内容(概要)〕

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
授業の全体計画説明。特別活動とは何か総合的な学習の時間とは何かについて、これまでの学校での学び体験(思い出)と、それぞれの主な内容と照らし合わせ、実感的に理解する。
- 第 2 回 意義と目的
特別活動及び総合的な学習の時間の意義と目的、両者の関連や代替え、類似点・差異を理解する。教育課程全体における位置付けに関して「土台」か「発展」か議論し、理解を深める。
- 第 3 回 指導方法上の特質
特別活動及び総合的な学習の時間の指導方法上の特質を検討する。体験活動と探求活動の指導方法について原理的な側面(方法原理)や技術的な側面に着目しながら、実践例を基に検討する。
- 第 4 回 特別活動の内容と指導① 学級活動・ホームルーム活動
内容(1)(2)(3)の目的、内容、指導方法の特質を理解する。内容(1)「生活づくりへ参画」では授業ビデオを取り上げ、議論を通して話合いの意義と指導の特質を検討する。
- 第 5 回 特別活動の内容と指導② 合意形成と意思決定

- 特別活動の核心である話し合い活動を取り上げる。合意形成に向けた話し合いのあり方と多数決について議論(ワールドカフェ)し、さらに意思決定につながる話し合いと比較し、理解を深める。
- 第 6 回 特別活動の内容と指導③ 生徒会活動
目的と内容を理解し、その上で現状と実践事例を素材に自発的、自治的活動を育てる指導方法を考えとともに諸問題を解決する活動の指導構想(指導計画)をグループワークで作成する。
- 第 7 回 特別活動の内容と指導④ 学校行事
目的と内容を理解し、その上で自治的に取り組む指導と文化づくりに取り組む指導について、実践ビデオを使いながら検討し、さらに具体的な行事の計画づくりに挑戦する。
- 第 8 回 総合的な学習の時間の指導計画①
横断的・総合的な課題と地域や学校の特色に応じた課題を中心に年間指導計画の考え方を検討する。年間の構想を具体化する作業を通して計画作成の技能を身に付ける。
- 第 9 回 総合的な学習の時間の指導計画②
生徒の興味・関心に基づく課題と職業や自己の将来に関する課題を中心に単元指導計画の考え方を検討する。単元構想を具体化する作業を通して計画作成の技能を身に付ける。
- 第 10 回 総合的な学習の時間の指導
探求的な学習の過程の考え方、それを具現する指導方法について実践例を素材に検討するとともに、「飼育栽培と命の授業」実践についてディベートし、指導について理解を深める。
- 第 11 回 評価と指導改善
特別活動及び総合的な学習の時間において生徒の学習状況を把握、評価する考え方と評価方法を検討する。評価を指導方法の検証ととらえ、指導改善へと結ぶ工夫を考える。
- 第 12 回 主体的・対話的で深い学び
特別活動及び総合的な学習の時間において「深い学び」をテーマに生徒の体験や活動の質を深めるための条件づくりや活動の組織、指導の工夫などについて議論し、理解を深める。
- 第 13 回 地域や関係機関との連携
特別活動、総合的な学習の時間及び部活動について、地域や関係諸機関と連携、協働する意義や現状を理解する。また、地域の伝統芸能を継承する実践ビデオを視聴し、理解を深める。
- 第 14 回 教育の課題解決に向けて(ディスカッション①)
現代の学校教育の課題(いじめ、不登校、荒れなど)を取り上げ、その解決に向けた実践の可能性を探る。授業内容や自身の体験、思い等を課題解決に結び付けて議論し、学びを総括する。
- 第 15 回 総括的議論(ディスカッション②)
特別活動、総合的な学習の時間について、各自のとらえ方において中心としたい意義と具現するための具体的な活動や指導を整理し、互いに夢を語り合うような形で総括的に議論する。

第 16 回 定期試験

テキスト・参考書、配付資料、自作ノート持ち込み可

〔成績評価の方法〕

各回で課すミニレポート（40%）、定期試験結果（60%）などを総合的に判断する。定期試験は、ノートや配布資料など持参自由とする。日頃のノートづくりが大切である。毎回、ミニレポート提出する。授業に出席していても、ミニレポート未提出が一定程度以上多い場合、単位を認定しない。

〔予習・復習に関する指示〕

〔教科書・参考書〕

（教科書）特別活動・総合的学習の理論と指導法（関川悦雄、今泉朝雄編、弘文社、2019）

（参考書）中学校・改訂学習指導要領解説・特別活動編（文部科学省）

中学校・改訂学習指導要領解説・総合的な学習の時間編（文部科学省）

高等学校・改訂学習指導要領解説・特別活動編（文部科学省）

高等学校・改訂学習指導要領解説・総合的な探求の時間編（文部科学省）

〔その他履修上の注意事項〕

〔オフィスアワーの設定〕

授業の前後で随時受け付ける。

〔カリキュラムの中の位置づけ〕

〔その他〕

〔資格関係〕

教職課程関連科目（履修の手引別表参照）（中学・高校必修）

〔キーワード〕

教育相談（カウンセリング含む） (Educational Consultation and Counseling)

623

生物資源環境学部 > 教職科目 > 2019年度入学者以降
2年

2単位 後期

水曜4限

実務経験なし

講義

澤田 忠幸 武山 雅志

〔目的〕

青年期の中学生・高校生が学校生活・学業・人間関係・自己・家族などの面で、どのような悩みや不応の問題に直面するかを理解し、どのような教育的支援が可能であるかを理解する。その際、教育相談を進める際に必要なカウンセリングに関する基礎的知識、心理相談や心理療法についての基礎的理解を得ることを目指す。その上で、教育相談の行う際に必要なアセスメント、コミュニケーション・スキル、関係機関との連携そして教育相談を行う側のメンタルヘルスについて学ぶ。

〔到達目標〕

1. 学校における教育相談の意義と理論、相談内容の種類について説明することができる。
2. 教育相談を進める際に必要な臨床心理学的な基本的事項について説明することができる。
3. 教育相談（学習相談・進路相談を含む）の具体的な進め方やそのポイントを理解し、関係部署とどのように連携して相談活動を行えばよいかについて理解する。

〔授業計画・内容（概要）〕

〔授業計画〕

第 1 回 生徒指導と教育相談

：学校における教育相談の位置づけと教師に求められる役割（担当：澤田忠幸）

第 2 回 思春期・青年期の心理と発達（1）

「大人」への移行期（担当：澤田忠幸）

第 3 回 思春期・青年期の心理と発達（2）

アイデンティティの模索と友人関係（担当：澤田忠幸）

第 4 回 心理検査とその利用

：心理検査の種類と利用する際の注意点（担当：澤田忠幸）

第 5 回 教育相談と教師のメンタルヘルス

：ストレス対処、アンガーマネジメント（担当：澤田忠幸）

第 6 回 家庭・地域・関係機関との連携

（担当：澤田忠幸）

第 7 回 学習指導、進路指導と教育相談【演習】

（担当：澤田忠幸）

第 8 回 中間試験

：レポート

第 9 回 教育相談におけるカウンセリングマインド

（担当：武山雅志）

第 10 回 教育相談におけるカウンセリングの理論（1）

傾聴、共感的理解の考え方（担当：武山雅志）

第 11 回 教育相談におけるカウンセリングの技法（1）

傾聴技法【演習】（担当：武山雅志）

第 12 回 教育相談におけるカウンセリングの理論（2）

積極技法の考え方、自己開示など（担当：武山雅志）

第 13 回 教育相談におけるカウンセリングの技法（2）

積極技法【演習】（担当：武山雅志）

第 14 回 事例に基づく教育相談の進め方（1）

いじめ【演習】（担当：武山雅志）

第 15 回 事例に基づく教育相談の進め方（2）

不登校【演習】（担当：武山雅志）

第 16 回 事例に基づく教育相談の進め方（3）

虐待ほか【演習】（担当：武山雅志）

第 17 回 定期試験

〔成績評価の方法〕

授業内でのワークシート兼ミニレポート（15枚） 40%、中間レポート 30%、学期末試験 30%を総合して評価する。

〔予習・復習に関する指示〕

〔教科書・参考書〕

(教材)教科書は使用しない。資料は適宜配付する。

(参考書)

文部科学省(平成22年3月)「生徒指導提要」(第3章),教育図書

春日井敏之・伊藤美奈子 編(2011)「よくわかる教育相談」ミネルヴァ書房

森田健宏・吉田佐治子 編(2018)「教育相談」ミネルヴァ書房
向後礼子・山本智子(2014)「ロールプレイで学ぶ教育相談

ワークブック:子どもの育ちを支える」ミネルヴァ書房

安藤俊介(2016)「アング・マネジメント入門」朝日新聞社出版

平木典子(2012)「アサーション入門:自分も相手も大切に
する自己表現法」講談社現代新書2143

その他、授業中随時、参考図書を紹介する。

〔その他履修上の注意事項〕

- ・欠席せずに全ての授業を受講してほしい
- ・授業ではグループワークを取り入れるので、積極的に参加すること

〔オフィスアワーの設定〕

授業の前後および研究室(B101)で随時受け付ける

〔カリキュラムの中の位置づけ〕

教職課程関連科目(履修の手引別表参照)。教員の免許状取得のための必修科目(本授業は教員免許法において道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目として設定された「教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法」に対応する)。

〔その他〕

〔資格関係〕

教員の免許状取得のための必修科目

〔キーワード〕

道徳教育論 (Theory of ethic education)

624

生物資源環境学部 > 教職科目 > 2019年度入学者以降
3年
2単位 前期
火曜5限
実務経験なし
講義
石倉 瑞恵

〔目的〕

特別の教科「道徳」、および学校における諸活動を通して多面的に行う道徳教育のあり方について理解を深め、それを実践する資質を養う。そこで、日本の道徳教育をその歴史の変遷の中で捉えて問題を把握する能力を身につけ、道徳教育思想を学んで道徳と道徳教育を多角的に捉える思考力を身につける。さらに、道徳教育の年間計画と学習指導案を作成し、教育者としてどのような道徳教育を行うことができるのかを自らに問いかける。倫理的思考力を高め、時代と子どもの変化に応じて多様な道徳教育のあり方を開発できるような資質を育むことをねらう。

〔到達目標〕

- 1 近代以降の日本の道徳教育の変容、道徳教育をめぐる問題について説明することができる。
- 2 哲学思想、道徳教育思想を学び、それぞれの思考の道筋を説明することができる。
- 3 現在の学校教育における道徳教育の考え方を理解し、課題を指摘することができる。
- 4 「道徳」運営の方法について理解し、多様な教育方法を取り入れた指導計画・学習指導案を作成して模擬授業を実施することができる。

〔授業計画・内容(概要)〕

〔授業計画〕

第1回 道徳教育は学校で必要か

観念的思考に入る前のexerciseをしよう。「道徳教育は学校で必要」派と「道徳教育は学校では不要」派の2グループにわかれて議論だ。グループは機械的に設定するので、本心とは違うグループに所属することもある。所属グループの主張を擁立すべく論を構築しよう。

第2回 道徳と宗教・法律はどう違う?

道徳と宗教、道徳と法律はどのように違うのか。自分の考えをまとめてグループで議論しよう。議論の後はグループ発表。図やイラストを用いてオリジナリティあふれるプレゼンにチャレンジだ。

第3回 中学校学習指導要領で道徳の内容を理解

平成29年告示「中学校学習指導要領」第3章「特別の教科道徳」を読み込んで道徳の内容に関するイメージを発展させよう。そのイメージを図やイラストを用いて表現し、個人発表にとり組もう。

第4回 道徳の授業を参観し議論しよう

実際に中学校で行われた道徳の授業を見て(ビデオ学習)、授業分析をしてみよう。目的、方法、展開、生徒の活動、教師の反応、評価の観点、気が付いたところをメモしよう。ビデオ学習の後は議論。学校の道徳教育は、生徒のどのような成長を期待していると思うか?

第5回 日本における道徳規範のルーツ

明治幕開けとともに、日本は道徳教育の基準をどこに置くのかを模索することになった。神道?仏教?宗教に依らない道徳教育だとしたら、儒教思想か、あるいは文明開化とともに入ってきた近代市民理論だろうか?「修身」教科書第1期から第5期までで扱われている題材の変化を分析し、道徳規範のルーツをどこに定めたのか考えてみよう。

第6回 修身・教育勅語後遺症

戦後、修身は廃止されたが、日本は再び道徳教育の基準を失うことになる。公民科や社会科構想、修身科復活などは次々と挫折する。「道徳の時間」設置までの道徳教育、かつての教育勅語をめぐる議論の道筋をたどろう。そして、君たちはこの議論についてどのように考えるか。

第7回 「道徳の時間」設置後の道徳教育の課題

「道徳の時間」設置後の日本社会の急速な変化は、高度経済成長を支える「人づくり」から、技術革新による人間性のゆがみに対処し、緊張する国際社会での日本の使命感を涵養する「期待される人間」づくりへと道徳教育への期待を膨らませていく。そのような道徳教育の問題について議論してみよう。

第 8 回 「道徳」教科化の背景

「生きる力」が提唱されてから「道徳」が教科化されるまでの学校教育における道徳の扱いの変化、道徳教育を推進・定着させる試みとその問題点を理解しよう。そして、道徳が「教科」になった背景を理解したら、議論をしよう。教科化について賛成か、反対か、その根拠は？

第 9 回 古代哲学における道徳教育思想：プラトンとアリストテレス

哲学的思索と議論に挑戦。徳はどのように育まれるのか、師弟でありながら、異なった見解を持っていたプラトンとアリストテレスを理解しよう。キーワードはイデアとエイドス。プラトン派とアリストテレス派に分かれて、議論しながら理解を深め、現代的な事例を引用してそれぞれの説をまとめてみよう。

第 10 回 理科と道徳の接点を考える

理科と道徳の接点は「生命や自然、崇高なもののかかわり」についての学びにあるのではないだろうか。大自然の摂理から道徳を学ぶことの意義と手法について考えよう。参考書『道徳教育の根拠を問う 大自然の摂理に学ぶ』

第 11 回 小・中・高の道徳の目標と内容・方法

小学校・中学校・高等学校における道徳の目標と内容を学ぼう。学校段階が上がるにつれてその内容はどのように変化しているのか考えよう。さらに、副教材（ビデオ教材）を分析し、それぞれの教育段階における道徳教育の方法について学ぼう。

第 12 回 年間指導計画・指導方法・教材・評価

学習指導要領解説を読み込み、「道徳」年間計画の作成の方法、道徳指導の配慮事項、教材、評価の方法について理解を深めよう。学習指導要領解説編の該当ページを分担輪読。

第 13 回 「道徳」学習指導案作成

「道徳」学習指導案を作成しよう。道筋は①テーマを決めて、年間計画の中での位置づけを確認する。②評価の観点を明確にする。③教材を決めて教材研究。④生徒の活動を予測して、展開を考える。大前提として、自分の道徳教育論が確立していることが肝要だ。

第 14 回 模擬授業（1）

作成した指導案に基づき、模擬授業を実施する。同時に、参観者は授業参観の方法を学ぶ。授業後は更なる改善に向けての議論。

第 15 回 模擬授業（2）

作成した指導案に基づき、模擬授業を実施する。同時に、参観者は授業参観の方法を学ぶ。授業後は更なる改善に向けての議論。

第 16 回 試験

〔成績評価の方法〕

試験50%、課題・発表30%、議論20%

教職課程の規範として欠席は認められない。

〔予習・復習に関する指示〕

あらかじめ配布する資料を熟読し、授業においていかなる説明を求められても、完璧に答えられるまでに理解しておこう。わからない事項は調べて補っておく必要がある。授業では、資料プラスアルファの内容についての解説、質疑応答、議論を行う。熟読していなければ授業への主体的参加は難しい。

〔教科書・参考書〕

（教科書）

なし

（参考書）

貝塚茂樹『道徳教育の教科書』学術出版会

ルソー、今野一雄『エミール』岩波文庫

中西真彦・結城章夫・吉田武夫・村上和雄・土居正稔『道徳教育の根拠を問う 大自然の摂理に学ぶ』学文社

田中圭治郎『道徳教育の基礎』ナカニシヤ出版

文部科学省『中学校学習指導要領解説 道徳編』

〔その他履修上の注意事項〕

日頃から、新聞等に目を通し、教育に関する記事のみならず、様々なニュースに関心をもつ。小説や随筆など様々な文章を読んで、人間理解の窓口を多く開放するように心がける。

〔オフィスアワーの設定〕

随時、研究室（B102）にて。

〔カリキュラムの中の位置づけ〕

本講義は、教育原理、教育課程論、教育制度論を履修した学生のみが履修することができる最高レベルの教育学の講義である。教育原理において教育学の視点と基本的議論の方法を学び、教育課程論では、教育という現象の内部に入りこみ、教育の諸要素を構成する術を学ぶ。教育制度論は教育を俯瞰的にとらえ、社会・文化・宗教等の関わりから教育を議論する資質を身につける。ここまで至って初めて、道徳教育論という観念的、哲学的事象を理解し議論する段階に達する。したがって、教育原理、教育課程論、教育制度論のいずれか一つでも履修していない学生は自主的に本講義の受講を辞退するがよい。

〔その他〕

筋道を立てて丁寧に思考するトレーニングを積み、自分の道徳教育論を構築しよう。道徳には正解はない。道徳の授業もしかりである。

〔資格関係〕

教職課程関連科目（履修の手引き別表参照）

〔キーワード〕

道徳教育思想、哲学思想、道徳科、教育方法、指導計画・学習指導案

教育実習事前・事後指導（中学校）(Training and Introspection of Teaching Practicum (junior high school)) 2019年度以前

630

生物資源環境学部 > 教職科目 > 2019年度入学者以降
4年
1単位 前期
木曜3限 木曜4限
実務経験なし
講義
澤田 忠幸

〔目的〕

本授業は2部構成である。教育実習に備えた「事前指導」、教育実習後の振り返りのための「事後指導」である。

教育実習では、生徒指導、学級経営、学校経営などを体験するが、事前指導においては、主として、学習指導のための準備、すなわち学習指導案作成、教壇実習の模擬的実践を行う。教材研究、学習指導案作成の方法、授業の構築・運営方法を習得すること、模擬授業を通して自己の課題を発見し、改善に向けて自己研修を行うという授業改善のサイクルを習得すること目的とする。

事後指導においては、教育実習全体を振り返って自己評価を行う。教師としての更なる課題を見出してその解決方法について考え、自己研修の方法を検討することが目的である。

〔到達目標〕

- 1 模擬授業にあたって、入念な教材研究を行い、授業を行う上で必要となる十分な学術的知識や実験技能を学習している。
- 2 生徒理解を踏まえて学習指導のプランを立て、そのプランを学習指導案として明確にまとめることができる。
- 3 生徒の反応等、起こりうる事態を予測して十分に授業の準備とシミュレーションを行った後に模擬授業に臨む。
- 4 模擬授業の後に自己評価を行い、授業改善に向けて更なる自己研修に取り組む。
- 5 他者の授業を参観して、自己の教育実践を振り返る上での手がかりとすることができる。

〔授業計画・内容（概要）〕

〔授業計画〕

〈事前指導〉

- 1 オリエンテーション
- 2 学習指導案作成の手順
- 3 教育実習での学びと注意事項
- 4 「教育実習の心得」講和
- 5-13 模擬授業の実施と参観、意見交換

〈事後指導〉

- 14-15 教育実習報告と意見交換

〔成績評価の方法〕

事前指導での模擬授業への取り組み熱意 50%
事前事後指導での上記以外の活動への取り組み熱意（授業参観、意見交換、実習報告、実習報告書） 50%

〔予習・復習に関する指示〕

模擬授業を担当する場合は、1週間より前に、学習指導案を作成し、個別に指導を受けにくる必要がある。学習指導案は、指導を通してよりよいものに作り上げていくため、1週間以上の指導期間が必要である。また、模擬授業を実施する前に、各自が模擬授業の予行演習をする必要がある。さらに、必要に応じて、学習指導案の他に、板書計画、教材等の準備をするとよい。

模擬授業を行ったら、意見交換において指摘、助言されたことを振り返り、次の模擬授業において改善できるようさらなる教材研究、教育方法の改善を行い、課題意識をもって模擬授業の予行演習をする。

〔教科書・参考書〕

適宜、資料を配布する。

〔その他履修上の注意事項〕

〔オフィスアワーの設定〕

随時、研究室にて。

〔カリキュラムの中の位置づけ〕

教員の免許状取得のための必修科目（本授業は教員免許法において教育実践に関する科目として設定された「教育実習（中）」に対応する）。

教職関連科目すべての知識、実践を応用、統合させる最終段階の科目の一つである。したがって、教職関連科目は「教育実習（中学校）」と4年次後期の「教職実践演習」を除き、すべての履修を終えていなければならない。

〔その他〕

〔資格関係〕

教職課程関連科目（履修の手引別表参照）。教員の免許状取得のための必修科目

〔キーワード〕

教材研究、学習指導案、授業の構築・運営、自己評価、自己研修。

教育実習（中学校）(Teaching Practicum (Junior High School)) 2019年度以前

631

生物資源環境学部 > 教職科目 > 2019年度入学者以降
4年
4単位 前期
火曜4限
実務経験なし
実習
澤田 忠幸 石倉 瑞恵

〔目的〕

学校教育現場での実習に臨み、大学の教養課程、教職課程、専門課程での学びを実践知へと高める。教壇での学習指導だけでなく、生徒指導、学級経営、学校経営などを実際に体験して、授業を行う上で必要な知識や技能、指導力、生徒理解力、学校・教育課程経営力などを向上させる。さらに、自己の教育実践に対して自己評価を行い、自分の課題を見出してその解決方法について考え、自己研修力を高める。

〔到達目標〕

- 1 教師の発する言動の影響力について熟慮した上で積極的に生徒と接し、生徒理解に努めることができる。
- 2 生徒理解を踏まえて学習指導のプランを立て、そのプランを学習指導案として明確にまとめることができる。
- 3 生徒の反応等、起こりうる事態を予測して十分に授業の準備とシミュレーションを行ったのちに教壇実習に臨む。
- 4 教壇実習の後に自己評価を行い、授業改善に向けて更なる自己研修に取り組む。
- 5 他者の授業を参観して、自己の教育実践を振り返る上での手がかりとすることができる。

〔授業計画・内容（概要）〕

〔授業計画〕

各々の実習校の実習計画に基づき3週間の教育実習を行う。その概要は以下の通り。

- ①指導教員による指導
- ②授業参観
- ③教材研究、指導案作成
- ④教壇実習、研究授業
- ⑤ホームルーム活動
- ⑥部活動、行事への参加
- ⑦生徒指導
- ⑧教育実習ノートへの記録、振り返りの記入
- ⑨その他

詳細は、教育実習事前・事後指導で配布する「教育実習ノート」を参照のこと。

〔成績評価の方法〕

実習校による教育実習評価 70%
教育実習訪問指導時の面談内容等 30%
教職課程の規範として欠席は認められない。

〔予習・復習に関する指示〕

教育実習に行く前に「教育実習ノート」の注意事項を熟読し、実習校や担当科目についての学習をしておく。教育実習が終了したら、「教育実習ノート」の指示に従い、実習報告書（実習内容、学んだこと、課題と感じたこと等を含む）を作成して提出する。

〔教科書・参考書〕

教育実習ノート（教育実習事前・事後指導時に配布）

〔その他履修上の注意事項〕

教育実習を履修するためには、教育実習に必要な要件を満たしていること、実習の約1年前に中学校に実習依頼をして内諾を得て、大学から中学校への正式依頼がすすんでいることが必要である。

〔オフィスアワーの設定〕

随時、研究室にて。

〔カリキュラムの中の位置づけ〕

教員の免許状取得のための必修科目（本授業は教員免許法において教育実践に関する科目として設定された「教育実習（中）」に対応する）。

教職関連科目すべての知識、実践を応用、統合させる最終段階の科目である。したがって、教職関連科目は4年次後期の「教職実践演習」を除き、すべてが履修済みでなければならない。

〔その他〕

〔資格関係〕

教員の免許状取得のための必修科目

〔キーワード〕

実践知、学習指導、生徒理解、学校・教育課程経営、自己評価、自己研修力

教育実習事前・事後指導（高校）(Training and Introspection of Teaching Practicum (high school))

632

生物資源環境学部 > 教職科目 > 2019年度入学者以降

4年

1単位 前期

木曜 3限 木曜 4限

実務経験なし

講義

石倉 瑞恵

〔目的〕

本授業は2部構成である。教育実習に備えた「事前指導」、教育実習後の振り返りのための「事後指導」である。「事前指導」においては、主として、学習指導のための準備、すなわち学習指導案作成、教壇実習の模擬的実践を行う。教材研究、学習指導案作成の方法、授業の構築・運営方法を習得すること、模擬授業を通して自己の課題を発見し、改善に向けて自己研修を行うという授業改善のサイクルを習得すること目的とする。「事後指導」においては、教育実習全体を振り返って自己評価を行う。教師としての更なる課題を見出してその解決方法について考え、自己研修の方法を検討することが目的である。

〔到達目標〕

- 1 模擬授業にあたって、入念な教材研究を行い、授業を行う上で必要となる十分な学術的知識や実験技能を学習している。
- 2 生徒理解を踏まえて学習指導のプランを立て、そのプランを学習指導案として明確にまとめることができる。
- 3 生徒の反応等、起こりうる事態を予測して十分に授業の準備とシミュレーションを行った後に模擬授業に臨む。
- 4 模擬授業の後に自己評価を行い、授業改善に向けて更なる自己研修に取り組む。
- 5 他者の授業を参観して、自己の教育実践を振り返る上で手がかりとすることができる。

〔授業計画・内容（概要）〕

〔授業計画〕

〈事前指導〉

- 1 オリエンテーション
 - 2 学習指導案作成の手順
 - 3 教育実習での学びと注意事項
 - 4 教育実習の心得
- 5-13 模擬授業の実施と参観、意見交換

〈事後指導〉

- 14-15 教育実習報告と意見交換

〔成績評価の方法〕

事前指導での模擬授業への取り組み熱意 50%
事前事後指導での上記以外の活動への取り組み熱意（授業
参観、意見交換、実習報告、実習報告書） 50%

〔予習・復習に関する指示〕

模擬授業を担当する場合は、1週間より前に、学習指導案を
作成し、個別に指導を受けにくる必要がある。学習指導案
は、指導を通してよりよいものに作り上げていくため、1週
間以上の指導期間が必要である。また、模擬授業を実施す
る前に、各自が模擬授業の予行演習をする必要がある。さ
らに、必要に応じて、学習指導案の他に、板書計画、教材
等の準備をするとよい。

模擬授業を行ったら、意見交換において指摘、助言された
ことを振り返り、次の模擬授業において改善できるようさ
らなる教材研究、教育方法の改善を行い、課題意識をもっ
て模擬授業の予行演習をする。

〔教科書・参考書〕

適宜、資料を配布する。

〔その他履修上の注意事項〕

〔オフィスアワーの設定〕

随時、研究室にて。

〔カリキュラムの中の位置づけ〕

教職関連科目すべての知識、実践を応用、統合させる最終
段階の科目の一つである。したがって、教職関連科目は「教
育実習（高等学校）」と4年次後期の「教職実践演習」を除
き、すべての履修を終えていなければならない。

〔その他〕

〔資格関係〕

教職課程関連科目（履修の手引き別表参照）

〔キーワード〕

教材研究、学習指導案、授業の構築・運営、自己評価、自
己研修。

教育実習（高校）（Teaching Practicum (High School)） 2019年度以前

633

生物資源環境学部 > 教職科目 > 2019年度入学者以降
4年
2単位 前期
火曜4限
実務経験なし
実習

石倉 瑞恵 澤田 忠幸

〔目的〕

学校教育現場での実習に臨み、大学の教養課程、教職課程、
専門課程での学びを実践知へと高める。教壇での学習指導
だけでなく、生徒指導、学級経営、学校経営などを実際に
体験して、授業を行う上で必要な知識や技能、指導力、生
徒理解力、学校・教育課程経営力などを向上させる。さら
に、自己の教育実践に対して自己評価を行い、自分の課題
を見出してその解決方法について考え、自己研修力を高め
る。

〔到達目標〕

- 1 教師の発する言動の影響力について熟慮した上で積極的に生徒と接し、生徒理解に努めることができる。
- 2 生徒理解を踏まえて学習指導のプランを立て、そのプランを学習指導案として明確にまとめることができる。
- 3 生徒の反応等、起こりうる事態を予測して十分に授業の準備とシミュレーションを行ったのちに教壇実習に臨む。
- 4 教壇実習の後に自己評価を行い、授業改善に向けて更なる自己研修に取り組む。
- 5 他者の授業を参観して、自己の教育実践を振り返る上での手がかりとすることができる。

〔授業計画・内容（概要）〕

〔授業計画〕

高校で最低2週間、各々の実習校の実習計画に基づいて実習
を行う。実習校での実習の前後には、別途授業「教育実習
事前・事後指導（高校）」において、事前指導と事後指導を
行う。

〔成績評価の方法〕

実習校による教育実習評価 60%

事前指導から教育実習にかけての到達目標に関する成長度
20%

教育実習報告会を通じた到達目標に関する評価20%

教職課程の規範として欠席は認められない。

〔予習・復習に関する指示〕

教育実習に行く前に「教育実習ノート」の注意事項を熟読
し、実習校や担当科目についての学習をしておく。教育実
習が終了したら、「教育実習ノート」の指示に従い、実習報
告書（実習内容、学んだこと、課題と感じたこと等を含む）
を作成して提出する。あわせて、教育実習報告会に向けて
プレゼンの準備を行う。

〔教科書・参考書〕

適宜、資料を配布する。

〔その他履修上の注意事項〕

教育実習を履修するためには、教育実習に必要な要件を満
たしていること、実習の約1年前に高校に実習依頼をして
内諾を得て、大学から高校への正式依頼が済んでいること
が必要である。

〔オフィスアワーの設定〕

随時、研究室にて。

〔カリキュラムの中の位置づけ〕

教職関連科目すべての知識、実践を応用、統合させる最終
段階の科目である。したがって、教職関連科目は4年次後期
の「教職実践演習」を除き、すべてを履修してあることが
望ましい。

〔その他〕

〔資格関係〕

教職課程関連科目（履修の手引き別表参照）

〔キーワード〕

実践知、学習指導、生徒理解、学校・教育課程経営、自己
評価、自己研修力

教職実践演習 (Seminar for Teaching Practice)

634

生物資源環境学部 > 教職科目 > 2019年度入学者以降
4年

2単位 後期
金曜1限 金曜2限
実務経験なし

演習

澤田 忠幸 石倉 瑞恵

〔目的〕

これまでに教職・教科科目で得た学習知と教育実習で得た実践知との統合を図り、使命感・責任感に裏打ちされた中学校・高校教員としての資質を学生自らが分析・確認し、総括的に高めることを目的とする。

〔到達目標〕

- 1 教育に対する使命感や愛情、困難に立ち向かう強い意志をもち、自己の職責を果たすことができる。
- 2 教員としての自覚に基づき目的や状況に応じた適切な言動を取ることができる。また、組織の一員としての自覚をもち、他の教職員と協力して職務を遂行することができる。
- 3 生徒に対して公平かつ受容的な態度で接し、豊かな人間的交流を行うことができる。また、生徒の発達や心身の状況に応じて抱える課題を理解し、適切な指導を行うことができる。
- 4 教科指導の基本的事項、及び新しい指導法について自己研修を行う意欲と姿勢を培う。

〔授業計画・内容(概要)〕

〔授業計画〕

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 模擬職員会議を通して学ぶ同僚との協働
- 第3回 模擬職員会議を通して学ぶ同僚との協働
- 第4回 理科教材開発
「生徒の関心を引き出す身近な科学」(グループ・ワーク)
- 第5回 理科教材開発
「生徒の関心を引き出す身近な科学」(グループ・ワーク)
- 第6回 模擬学校経営
：参加型行事の運営と生徒・保護者との交流
- 第7回 模擬学校経営
：参加型行事の運営と生徒・保護者との交流
- 第8回 模擬学校経営
：参加型行事の運営と生徒・保護者との交流
- 第9回 ケース・スタディ
「教育方法の今日的課題」(高校での参観授業と議論を含む)
- 第10回 ケース・スタディ
「教育方法の今日的課題」(高校での参観授業と議論を含む)
- 第11回 特別支援教育についての理解
(特別支援学校での参観授業を含む)
- 第12回 特別支援教育についての理解
(特別支援学校での参観授業を含む)

第13回 自己研修

：教員による講話「教師のライフコース」と議論

第14回 自己研修

：教員による講話「教師のライフコース」と議論

第15回 学びの振り返り

〔成績評価の方法〕

模擬職員会議やグループワーク、模擬学校経営、参観と議論等への取り組みにおいて、到達目標の1～4を達成しようとする意欲と努力が見られるか(50%)、また、到達目標に向けての成長が見られるか(50%)。

〔予習・復習に関する指示〕

〔教科書・参考書〕

(教科書) 適宜、資料を配布する。

(参考書)

西岡加名恵 他『教職実践演習ワークブック』ミネルヴァ書房

〔その他履修上の注意事項〕

教職課程の総括的科目である。この授業を通して教員免許授与が適切であるか否かの最終的判断が下されると心得よ。

〔オフィスアワーの設定〕

随時、研究室にて。

〔カリキュラムの中の位置づけ〕

教職課程関連科目(履修の手引別表参照)。教員の免許状取得のための必修科目(本授業は教員免許法において教育実践に関する科目として設定された「教職実践演習」に対応する)。

〔その他〕

〔資格関係〕

教員の免許状取得のための必修科目

〔キーワード〕

職業指導 (Vocational Guidance)

660

生物資源環境学部 > 教職科目 > 2019年度入学者以降
2年

2単位 後期

水曜2限

実務経験あり

講義

菱田 陽子

〔目的〕

生徒に対して職業に就くことの意義等について指導するために必要な、基礎知識・技能を理解・習得し、その指導方法を学ぶ。それと共に、交流分析による自己分析を行い、自己を知り、職業に就くことの意義、職業観、自らの人生設計、生き甲斐感等について考えることを内容とする。

〔到達目標〕

- 1) 「職業指導」の概念を充分理解し、生徒指導の実践に役立てることを目標とする。
- 2) 「職業指導」は具体的職業のみに関わる科目ではなく、働くこと、生きること、人生全般に関わっていくことを内容とする科目であり、社会心理学、臨床心理学、カウンセリング理論の応用まで必要とされることを理解し、それらの内容を実践の場で生かせるよう身に着けることを目標と

する。

3) 具体的な職業、就職に関わると同時に、指導相手は個人差があることを念頭に置いて指導できるよう、自分自身の知識と心の学びを継続できる自立・自律性を身に付け、成熟した人格に向かえる心性を育てることを目標とする。

〔授業計画・内容（概要）〕

職業指導は、生き方、働き方、社会性等、あらゆる側面と関連がある。まず、自己を知り、生徒の内面と対する必要があるため、最初に自己分析を学び、以下に示す内容を身に着ける。授業形態は、各自、担当部分を自分で選び、資料作成と発表の形式をとる。期末の試験は行わない。各授業の最後に小レポートを書くことにより、自分の感想、考えをまとめ、授業効果の定着を図る。

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス、現代学校教育の構造と機能

1. 学校教育の意義、学校教育の教育構造、2. 教育課程の類型、教育課程の「領域」と「機能」の概念、3. 教育課程の理念的方向、教育活性化の環境・条件の整備、等について学ぶ。

第 2 回 自己を知る：交流分析 1

生徒の相談に乗り、指導する上で、まず、自己を知っていることが望まれる。ここでは、エリック・バーンの交流分析理論に基づき、質問紙による自己分析を試みる。

第 3 回 自己を知る：交流分析 2

前回に続き、交流分析理論を学び、変化する自己の内面を分析する技法を身につける。このことにより、葛藤の少ない、自分らしい交流をもとに生徒の指導に当たることが望まれる。

第 4 回 生徒指導

1. 戦前における生徒指導、戦後における生徒指導、2. 生徒指導の教育的意義、生徒指導の目的と領域、3. 教育課程と生徒指導の関連、学習指導要領に見る生徒指導の位置づけ、生徒指導と教育課程にもとづく教育活動との関連、4. 発達の理論、集団指導に関する理論、等について学ぶ。

第 5 回 生徒指導の領域と具体的方法

1. 生徒指導の療育、2. 生徒指導と進路指導の関係、3. 児童生徒理解の方法・技術、4. 集団指導の方法・技術、等について学ぶ。

第 6 回 生徒指導の実践的展開 1

1. 生徒指導の役割と校内指導体制、生徒指導の組織、生徒指導部に関わる人びと、望ましい体制づくり、2. 教務部との連携、進路指導部との連携、保健厚生部との連携、各運営協議会・各委員会、等について学ぶ。

第 7 回 生徒指導の実践的展開 2

前回に続き、3. 生徒指導目的の設定、生徒指導計画、実施の推進、4. 教育評価の仕組み、生徒指導の評価、評価の活用、等について学ぶ。

第 8 回 生徒指導の教育課題と解決 1

1. 適応・不適応の概念、問題行動の概念、2. 非行・性非行・校内暴力・いじめ、不登校・心身症・神経症、等について学ぶ。

第 9 回 生徒指導の教育課題と解決 2

前回に続き、3. 特別支援教育、学校外期間との協力・連携、等について学ぶ。

第 10 回 進路指導の歴史と理念

1. アメリカにおける歴史的展開、日本における歴史的展開、2. 進路指導の定義と目的、進路指導の意義と機能、3. 教育課程の変遷と進路指導、今日の教育課程と進路指導、等について学ぶ。

第 11 回 進路指導の基礎理論と方法 1

1. 本章で取り上げる理論の概念、2. 日米の進路指導の発祥に共通する児童保護の理念、パーソナルの職業選択の理論、理論を学校教育で実に移したデータベース、特性・因子論とその後、等を学ぶ。

第 12 回 進路指導の基礎理論と方法 2

前回に続き、3. ホランダの職業的パーソナリティ理論など、シャインのキャリア・アンカー、4. スーパーの職業的発達理論、ガイスパースによる生涯キャリア発達論、ジェプセンのストーリーとしてのキャリア、5. バンデューラの自己効力理論、クルンボルツの偶発性の理論、等を学ぶ。

第 13 回 進路指導の実践的展開 1

1. 学校進路指導の校内組織と管理運営、進路指導の計画と実施、2. 進路指導における集団指導と個人指導、進路指導における集団指導

第 14 回 進路指導の実践的展開 2

3. 個人ガイダンス、個別カウンセリング、4. 進路指導の評価の特質、進路指導の評価の対象と内容、進路指導の評価の手順と方法、等を学ぶ。

第 15 回 進路指導の教育課題と解決

1. 学校から社会への移行をめぐる問題、子どもたちの生活・意識の問題、キャリア教育の提唱と推進、キャリア教育の意義、2. キャリア発達を促すために育成することが期待される能力や態度：基礎的・汎用的能力、キャリア教育充実のための方策、キャリア教育の進め方、3. キャリア教育と学校外活動、等について学ぶ。

〔成績評価の方法〕

担当箇所の発表内容、発表態度（60%）、各授業後のコメント（10%）、期末のレポート（20%）、受講状況（10%）

〔予習・復習に関する指示〕

発表の担当箇所は、最初に決める。各自で希望の箇所を決め、決定後は、その箇所に関する教科書の内容のみではなく、ネットや関連書物で関連情報を集め、資料作成を開始していただきたい。発表回数は平均2回なので、充実した発表準備をすることで、充実した発表を楽しんでいただきたい。復習に関しては、必要に応じて、疑問点を調べる程度である。

〔教科書・参考書〕

（教科書）「改訂 生徒指導・教育相談・進路指導」仙崎武・野々村新・渡辺三枝子・菊池武剋 編者、松井賢二、榎本和生、植松紀子、下司昌一、三川俊樹、橋本幸晴、藤田晃之、三

村隆男、池場望 共著 田研出版

(教材)「新版 TEG 3」東京大学医学部心療内科TEG 研究会編、金子書房

〔その他履修上の注意事項〕

〔オフィスアワーの設定〕

① 授業後に受け付ける。

② アポイントメントにより対応 (メール : yhishida@gmail.com)

〔カリキュラムの中の位置づけ〕

教員免許取得に関連する科目。特に、農業高校の教員免許取得と関連している。卒業後の職業選択、進路選択指導を目的とする内容である。そのための相談指導に必要な知識を学ぶ。具体的には、カウンセリング関連の内容も含み、心理学の要素も内容としている。

〔その他〕

実務経験に関して：国内企業の社長秘書として勤務。アメリカの伊藤忠ニューヨーク勤務。国内・海外の勤務を通して、働くことに関する、人間関係、社会との関わり、自己実現を含む生き方について、自ら得た知識、知恵を講義の内容に含めていく。

〔資格関係〕

教職課程関連科目 (履修の手引別表参照)。農業高校の教員免許取得に関する必修科目。

〔キーワード〕

キャリア、インターンシップ、職業選択、自己実現、自己啓発、適応・不適応

教育方法・技術論 (ICT活用を含む) (Method and Technology for Education(including the use of ICT)) 2022年度以降

教育方法・技術論(Method and Technology for Education)

620

生物資源環境学部 > 教職科目 > 2022年度入学生以降
2年

1単位 前期集中

実務経験なし

講義

黒田 卓

〔目的〕

本授業では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けることを目的としている。大きく変わろうとしている学校と、そこで行われている授業について、教育の方法、指導技術や評価方法、授業を支援するメディアの役割について理解する。実習的な活動も取り入れ、教える立場として授業を考えることにより、これからの教師に求められる資質、能力について理解し、その準備を自ら行えるよう支援する。

〔到達目標〕

・これからの情報社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法について説明できる。
・教育の目的に適した情報通信技術を活用した、さまざま

な指導技術や評価方法について説明できる。

・教育の情報化の進展に伴う教育方法の変化を理解し、効果的なメディアの活用、教材の作成ができる。

〔授業計画・内容 (概要)〕

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーションー学習とはなにか

講義のすすめ方・授業ってなに、教育ってなに？
教えるということ、学ぶということを取り巻く背景思想

第 2 回 メディアと学びの関係ーデータ、情報、知識とは何か

データ、情報、知識の違い。学びにおけるメディアの役割の理解

第 3 回 教育の情報化 (情報教育・教科指導におけるICTの活用・校務の情報化)の動向ーStuDXで教師の働き方はどう変わるのか・統合型校務支援システムを用いた校務の推進とこれからの教師に求められる情報活用能力)

教育の情報化の現状、今後について

第 4 回 子どもたちを取り巻く学習環境の変化ー電子教科書・電子黒板を活用した授業実践

電子メディアの普及による子どもの学びの環境の変化について

第 5 回 すぐれた授業とはなにか

すぐれた授業とはなにかを考える

第 6 回 授業をデザインするー授業を考える上で必要となる要素、戦後教育方法研究に学ぶ

授業設計のために必要となる事項を学ぶ

第 7 回 授業技法ー授業を進める上で必要となるコミュニケーション技術

授業におけるコミュニケーションのあり方について学ぶ

第 8 回 効果的な教材デザインーデジタルコンテンツの可能性・【演習】教材製作

授業をすすめる上で必要となる教材作成の方法、考え方について学ぶ

第 9 回 授業をどのように評価するか

授業を評価する意味、評価の方法について学ぶ

第 10 回 学校はどのように変わっていくかー総合的な学習の時間の本質

総合的な学習の時間について、その導入の意味、ねらいを学ぶ

第 11 回 ICTを利用した教育方法改善 - 反転授業、遠隔教育等 -

ICTを活用した授業の方法や、効果について学ぶ

第 12 回 学校における教育活動と著作権

教員として身につけておくべき著作権知識を学ぶ

第 13 回 子どもに伝えたい情報モラル・セキュリティ

情報モラル、セキュリティの指導について学ぶ

第 14 回 教えるということを改めて考え直す：学びのための学習環境

これまでの学習をもとに、学びのための学習環境のあり方を考える

第 15 回 【総合実習】 これからの教員に求められる能力とは

これまでの学習をまとめる

第 16 回 総合評価

本授業での学びを評価する

〔成績評価の方法〕

中間課題・演習作品（30%）、最終試験（70%）で評価する。

〔予習・復習に関する指示〕

〔教科書・参考書〕

【教科書】

教育の方法と技術Ver.2 IDとICTでつくる主体的・対話的で深い学び

出版社名 北大路書房 2200円+税

出版年月 2022年12月

ISBNコード 978-4-7628-3212-3

【参考書】

新しい時代の教育方法改訂版 田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之著 有斐閣アルマ 1800円+税

教材設計マニュアル 鈴木克明著 北大路書房 2200円+税

視聴覚メディアと教育方法 井上智義編 北大路書房 2400円+税

教育の方法と技術 平田啓一・町田隆哉編 教育出版 2260円+税

新しい教育の方法と技術、篠原 正典・宮寺 晃夫、ミネルヴァ書房、

中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領（最新版）

そのほか、必要に応じて指示します。

〔その他履修上の注意事項〕

e-Learningを利用します。PCもしくはスマートフォンを準備しておいてください。持っていない場合は、事前にメールで連絡してください。

〔オフィスアワーの設定〕

e-mailで連絡してください。

tkuroda@edu.u-toyama.ac.jp

〔カリキュラムの中の位置づけ〕

〔その他〕

〔資格関係〕

教職課程関連科目（履修の手引別表参照）

〔キーワード〕